令和5年度 業務実績報告書



令和6年6月 地方独立行政法人静岡市立静岡病院

目 次

_	,		貝
I		法人の現況、目的、業務内容等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 1
		法人の現況	
		役員等の状況	
		職員の状況	
		法人の理念や運営上の方針	
		法人の目的	
		業務内容	
('	,	法人の位置付け及び役割	
Π		計画に係る実績及び自己評価	
(:	1)	業務実績に係る自己評価の評価基準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 5
(:	2)	小項目自己評価一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 6
Ш	力	、項目ごとの実績及び評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 8
第		中期計画及び事業年度の期間	
第:	2	市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
	1	地域における役割・機能と担うべき医療・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 8
	(1)静岡病院が担う役割・機能	
	(2	2) 静岡病院が担うべき医療(高度医療・専門医療等、救急医療、感染症医療、災害時医療)	
:	2	患者の視点に立った信頼される医療の提供 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 15
	(1)患者中心の医療の推進	
	(2	2) 医療安全対策	
	(3	3) 患者サービスの向上	
;	3	医療従事者の確保と働き方改革 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 21
	(1)医療従事者の確保	
	(2	2) 医療従事者の働きやすい環境づくり	
2	4	地域との連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 25
	(1)地域の医療機関との連携	
	(2	2) 市や関係機関等との連携	
	(3	3) 市民への情報提供	
第	3	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	
	1	効率的な業務運営等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 31
:	2	教育研修の充実 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 33
;	3	職員の勤務意欲の向上 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 35
2	4	事務部門の強化 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 37
第一	4	財務内容の改善に関する日煙を達成するためとるべき共置	
	1	経営指標に係る数値目標の設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 36
:	2	経営指標に係る数値目標の設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 40
第		その他業務運営に関する重要事項に係る目標を達成するためとるべき措置	
	1		• 42
:	2	法令等の遵守 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 44
IV	?	3和5年度計画目標値・参考値一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 46
用語	吾解	¥説 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 40

I 法人の現況、目的、業務内容等

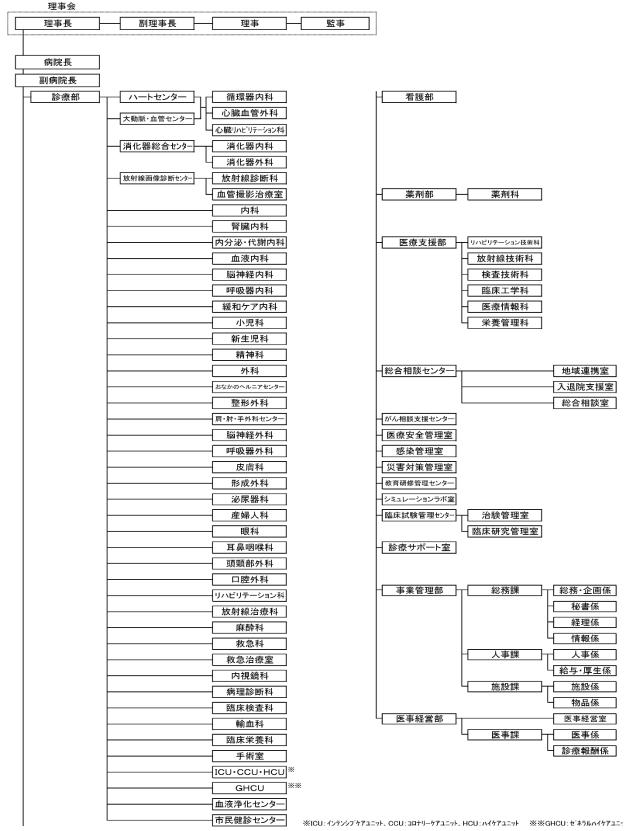
(1) 法人の現況 (令和5年4月1日現在)

法人名 地方独立行政法人静岡市立静岡病院

所在地 静岡市葵区追手町 10番 93号

設立年月日 平成28年4月1日

組織図 (令和5年7月1日)



(2) 役員等の状況 (令和5年4月1日時点)

役 職	氏 名	任 期	備考	
理事長	小野寺 知哉	自 令和5年4月 1日	常勤	
 理事	小野子 和成	至 令和9年3月31日	病院長を兼務	
副理事長	 前田 明則	自 令和5年4月 1日	常勤	
町垤事 攻	別山 切別	至 令和9年3月31日	副病院長を兼務	
副理事長	 平松 以津子	自 令和5年4月 1日	常勤	
町垤事 攻	十位 以件了	至 令和9年3月31日	用 到 	
理 事	大畑 和弘	自 令和5年4月 1日	常勤	
生 事	<u>Д</u> УДШ ДДДД	至 令和7年3月31日	币 到	
理 事	 山田 孝	自 令和5年4月 1日	常勤	
生 事	四四 子	至 令和7年3月31日	副病院長を兼務	
理 事	 深澤 誠司	自 令和5年4月 1日	常勤	
生 事	(木(辛))(口)	至 令和7年3月31日	副病院長を兼務	
理事	 居城 舜子	自 令和5年4月 1日	非常勤	
生	<i>白姒</i> 奔丁	至 令和7年3月31日	作用到	
理 事	演邊 昌子	自 令和5年4月 1日	非常勤	
生 事		至 令和7年3月31日	作用到	
理事	 藤田 尚徳	自 令和5年4月 1日	非常勤	
生 ず		至 令和7年3月31日	が市動	
監事	 興津 哲雄	自 令和4年度財務諸表承認日の翌日	弁護士	
血	光件 冶件	至 令和8年度財務諸表承認日	开唆工	
監事	 山田 博久	自 令和4年度財務諸表承認日の翌日	公認会計士	
<u>m.</u> #	四四 守久	至 令和8年度財務諸表承認日	本心式日上	

(3) 職員の状況 (令和6年3月31日現在)

職員数 940名

(内訳) 医師 169名

看護師・助産師 526名

医療技術員 174名

事務職 71 名 (うち派遣職員 14名)

(4) 法人の理念や運営上の方針

基本理念

開かれた病院として、市民に温かく、質の高い医療を提供し、福祉の増進を図ります。 基本方針

- 1. 患者さんを主体とし、患者さんにとって最善の全人的医療を実践します。
- 2. 静岡市の基幹病院として、高度専門医療を提供し、その向上を常に図ります。
- 3. 市民の安全を守るため、二次救急医療、救命救急医療、災害時医療を提供します。
- 4. 地域医療の充実のため、病診連携、病病連携、保健福祉機関との連携を図ります。
- 5. 職員は、研修、研究、教育を通じて医療水準の向上を図ります。

(5) 法人の目的 (地方独立行政法人静岡市立静岡病院定款 第1条)

地方独立行政法人静岡市立静岡病院は、地方独立行政法人法 (平成15年法律第118号。以下「法」という。) に基づき、医療の提供、医療に関する調査及び研究、医療に従事する者の育成等の業務を行うとともに、地域の医療機関との役割分担及び連携のもと、静岡市の医療施策として求められる救急医療、高度医療等を提供することにより、医療の水準の向上を図り、もって市民の健康の維持及び増進に寄与することを目的としています。

(6) 業務内容 (地方独立行政法人静岡市立静岡病院定款 第17条)

地方独立行政法人静岡市立静岡病院は、法人の目的を達成するために、次に掲げる業務を行います。

- (1) 医療を提供すること。
- (2) 医療に関する調査及び研究を行うこと。
- (3) 医療に従事する者に対する研修を行うこと。
- (4) 医療に関する地域への支援を行うこと。
- (5) 人間ドック、健康診断等の予防医療を提供すること。
- (6) 上記(1) から(5) に掲げる業務に附帯する業務を行うこと。

(7) 法人の位置付け及び役割

【法人の位置付け】(令和6年3月31日時点)

病 院 名 静岡市立静岡病院

主な役割 地域医療支援病院* (平成18年)

及び機能 臨床研修指定病院*

救急告示病院

第一種感染症指定医療機関(平成20年)

災害拠点病院(平成25年)

地域がん診療連携拠点病院*(平成19年)

エイズ中核拠点病院

地域肝疾患診療連携拠点病院(平成19年)

地域周産期母子医療センター*

日本医療機能評価機構認定病院(平成20年)

診療科目 内科、腎臓内科、内分泌・代謝内科、血液内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、緩和ケア内科、小児科、精神科、外科、消化器外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、救急科、歯科口腔外科及び病理診断科

(計31科目)

病 床 数 506 床 (感染症病床「一類2床、二類4床」を含む)

沿 革 明治2年 追手町四ツ足御門外に藩立駿府病院を開設

明治9年 公立静岡病院として屋形町で開院(県立)

明治15年 県立から郡立(有度・安倍郡)に移管

明治22年 静岡市制施行に伴い静岡市に移管

明治38年 市立静岡病院と改称

昭和20年 戦災により焼失

昭和21年 隣保館(巴町59番地)を改築、仮病院とする

昭和26年 追手町10番93号(現在地)に移転

昭和49年 本館(旧東館)竣工

昭和60年 病院建設工事施工(4か年継続事業)

昭和62年 第1期西館高層棟完成

平成元年 第2期低層棟、立体駐車場、東館改修工事完成

平成2年 オープンシステム (開放型病院) 実施

平成3年 心電図伝送システム導入

平成7年 オーダリングシステム稼働

平成15年 新静岡市にて開設

平成 15 年 日本医療機能評価機構の病院機能評価認定審査に合格 (Ver. 4)

平成 15 年 地域医療支援室を設置

平成 18 年 地域医療支援病院の承認を取得

平成19年 地域がん診療連携拠点病院の指定

平成19年 肝疾患診療連携拠点病院の指定

平成20年 東館竣工

平成20年 電子カルテシステム稼働

平成 20 年 日本医療機能評価機構の病院機能評価認定更新(Ver. 5) 平成21年 DPC*対象病院 平成22年 病院専用駐車場竣工 平成25年 ハイブリット手術室稼働 平成 25 年 内視鏡下手術用ロボット (ダ・ヴィンチ) 稼働 平成25年 日本医療機能評価機構の病院機能評価認定更新(3rdG: Ver. 1.0) 平成 25 年 災害拠点病院の指定 平成26年 経カテーテル大動脈弁置換術開始 平成 28 年 地方独立行政法人としてスタート 平成 29 年 PET/CT*稼動 平成 30 年 日本医療機能評価機構の病院機能評価認定更新(3rdG: Ver. 2. 0) 令和元年 創立 150 周年記念式典及び祝賀会挙行 令和元年 パルス式キセノン紫外線照射ロボット (ライトストライク) 導入 令和2年 新型コロナウイルス感染症重点医療機関の指定 令和2年 特定行為研修指定研修機関の指定 令和3年 総合医療情報システム(電子カルテ)更新 令和4年 大動脈・血管センター開設 令和5年 肩・肘・手外科センター、おなかのヘルニアセンター開設

【法人の役割】

第3期中期目標期間における法人が果たすべき役割

令和5年

○市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上

- ①地域における役割・機能と担うべき医療
 - 静岡病院が担う役割・機能
 - ・静岡病院が担うべき医療

高度医療・専門医療等、救急医療、感染症医療、災害時医療

日本医療機能評価機構の病院機能評価認定更新(3rdG: Ver. 3.0)

- ②患者の視点に立った信頼される医療の提供
 - ・患者中心の医療の推進
 - 医療安全対策
 - ・患者サービスの向上
- ③医療従事者の確保と働き方改革
 - 医療従事者の確保
 - ・医療従事者の働きやすい環境づくり
- ④地域との連携
 - ・地域の医療機関との連携
 - ・市や関係機関等との連携
 - ・市民への情報提供

○業務運営の改善及び効率化

- ①効率的な業務運営等
- ②教育研修の充実
- ③職員の勤務意欲の向上
- ④事務部門の強化

○財政内容の改善

- ①経営指標に係る数値目標の設定
- ②収入の確保及び費用の節減

○その他業務運営

- ①法令等の遵守
- ②施設・医療機器等の更新

Ⅱ 計画に係る実績及び自己評価

(1) 業務実績に係る自己評価の評価基準

ア 小項目評価

S	年度計画における所期の目標を上回る成果が得られていると認められる
A	年度計画における所期の目標をおおむね達成していると認められる<標準>
В	年度計画における所期の目標を下回っており、必要に応じて、改善を求める
С	年度計画における所期の目標を大幅に下回っている、又は業務の廃止を含めた抜本的な改善を 要する

※困難度「高」の設定

- ・法人を取り巻く環境の変化等により、所期の計画の達成が困難な小項目については、「困難度」を「高」と設定することとする。
- ・困難度「高」と設定した項目については、評価を一段階上げることができる。

イ 細目評価

	目標値の設定あり	目標値の設定なし
S	計画の水準を上回る実績 (目標値に対し 115%以上の実績)	計画の水準を上回っている
a	計画の水準を満たす実績 (目標値に対し95%以上115%未満の実績)	計画の水準を満たしている
b	計画の水準を下回る実績 (目標値に対し75%以上95%未満の実績)	計画の水準を下回っている
С	計画の水準を大幅に下回る実績 (目標値に対して 75%未満の実績)	計画の水準を大幅に下回っている

※ 細目のうち特に重要な取組(細目)を「重点項目」と設定することができる。

(2) 小項目自己評価一覧

第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

小項目及び細目の名称		自己評価			へる相単
小項目及び神目の名称	困難度	小項目	細目	重点	頁
1 地域における役割・機能と担うべき医療					
(1) 静岡病院が担う役割・機能	高	A			8
○静岡病院が果たすべき役割			а	\circ	
(2) 静岡病院が担うべき医療		A			10
○高度医療・専門医療等			а	0	
○救急医療			S	0	
○感染症医療			a	0	
○災害時医療			S		
2 患者の視点に立った信頼される医療の提供					
(1) 患者中心の医療の推進		A			15
○患者中心の医療の推進			а		
(2) 医療安全対策		S			17
○医療安全対策強化に向けた取り組み			S	\circ	
(3) 患者サービスの向上		A			19
○患者サービス向上に向けた取り組み			а	\circ	
3 医療従事者の確保と働き方改革					
(1) 医療従事者の確保	高	A			21
○医療従事者確保に向けた取り組み			а	\circ	
(2) 医療従事者の働きやすい環境づくり	高	A			23
○働きやすい環境の整備			а	\circ	
4 地域との連携					
(1) 地域の医療機関との連携		A			25
○地域の医療機関との連携推進			а		
(2) 市や関係機関等との連携		A			27
○市や関係機関等との連携推進			а		
(3) 市民への情報提供		В			29
○市民への情報提供と広報活動の充実			b		

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

		自己評価			_
小項目及び細目の名称	困難度	小項目	細目	重点	頁
1 効率的な業務運営等					
効率的な業務運営等		A			31
○効率的な業務運営と改善活動			a	\circ	
2 教育研修の充実					
教育研修の充実		S			33
○教育研修の充実と環境整備			S		
3 職員の勤務意欲の向上					
職員の勤務意欲の向上		A			35
○職員満足度向上に向けた取り組み			a		
4 事務部門の強化					
事務部門の強化		A			37
○事務職員の育成			a		

第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

Γ	小項目及び細目の名称		困難度	自己評価			귬
		7 英目及O細目の石桥	四無反	小項目	細目	重点	頁
	1	経営指標に係る数値目標の設定					
		経営指標に係る数値目標の設定		A			39
		○数値目標達成に向けた取り組み			а		
	2	収入の確保及び費用の節減					
		収入の確保及び費用の節減		A			40
		○収入の確保及び費用の節減に向けた取り組み			a		

第5 その他業務運営に関する重要事項に係る目標を達成するためとるべき措置

小項目及び細目の名称		自己評価			頁
7で気日及び州口の石柳	困難度	小項目	細目	重点	只
1 法令等の遵守					
法令等の遵守		В			42
○法令等の遵守			b		
2 施設・医療機器等の更新					
施設・医療機器等の更新		А			44
○施設・医療機器等の更新			а		

Ⅲ 小項目ごとの業務実績及び評価

第1 中期計画及び事業年度の期間

第3期中期計画の期間 令和5年4月1日から令和9年3月31日までの4年間 事業年度の期間 令和5年4月1日から令和6年3月31日までの1年間

- 第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 - 1 地域における役割・機能と担うべき医療
 - (1)静岡病院が担う役割・機能

が同かりにかっきノストン「及化				
医療需要の変化への対応等を迫られる厳しい環境の中、国等の医療政策の動向を十分に踏まえ、 誰一人取り残さない地域医療の安定的な提供と健全な病院経営の両立を図りつつ、質の高い医療を 提供していくこと。 また、地域医療構想*等を踏まえ、高度な急性期医療を担う中核病院として、市内の医療提供体 制において果たすべき役割や機能を明確に示していくこと。併せて地域包括ケアシステム*構築の 推進に寄与すること。				
静岡県地域医療構想等を踏まえ、高度急性期*医療・救急医療を担う地域の基幹病院として、患者の状態の早期安定に向けた質の高い医療と手厚い看護を提供します。また、地域の医療機関等との速やかな病病・病診連携により、患者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを送ることができるよう、地域包括ケアシステム*の一翼を担い地域医療に貢献します。				
静岡医療圏における今後の人口減少や、高齢化に伴う医療ニーズの変化などを見据え、質の高い 医療を効率的に市民へ提供できる体制を目指します。静岡県地域医療構想を踏まえ、高度急性期医療及び急性期医療を担う基幹病院として近隣医療圏からの救急患者の受入れにも努め、救急医療機能や地域連携を充実・強化し、在院日数の短縮と病床回転率の向上により適正な入院期間を構築します。 老々介護やヤングケアラーなど退院困難なケースへ積極的に介入し、社会保障制度の活用や病病・病診連携の推進など、在宅復帰に向けた取り組みにより入退院を支援します。また、地域のかかりつけ医と共に疾患を管理する地域連携パス*(疾患別病診連携パス)を活用し、より多くの緊急性の				
等を目的としたHCU (ハイケアユニット) の増床や、入院決定から退院までの一貫したと地域の医療機関・施設との連携などにより、質の高い医療の提供を推進した。目は、地域連携パスについて若干目標値を下回ったものの計画の水準内であり、また、れの項目も前年度実績を上回っていることから、年度計画における所期の目標をおお	た支援 目標値 いず	評価 A		
業務実績、評価理由	重点	評価		
が果たすべき役割 の基幹病院として、静岡県地域医療構想を踏まえた当院の主たる役割を、急性期医 病度急性期医療を担うこととし、診療体制の整備や医療の提供、地域の医療機関及び 福祉施設等との連携に努めた。 別医療・高度急性期医療の更なる推進と、限られた人員の有効的かつ効率的な配置と 積極的な病床運用による稼働率の向上を図るため、HCU (ハイケアユニット)を東8 集約し、20 床から 30 床へ増床した。 入院期間 II 以内退院割合は、クリニカルパス*数の増加や各診療科との病院長ヒアリ での周知、入退院支援室での早期退院に向けた取り組み等により、目標値を上回っ を支援室による入院決定から退院までの一貫した支援や、地域の医療機関・施設等と をにより、適切な入院治療に向けた支援と円滑な退院に向けた支援に取り組んだ。	0	а		
	 	 誰一人取り残さない地域医療の安定的な提供と健全な病院経営の両立を図りつつ、質の高い 提供していくこと。 また、地域医療構料等を踏まえ、高度な急性期医療を担う中核病院として、市内の医療 制において果たすべき役割や機能を明確に示していくこと。併せて地域包括ケアシステム* 推進に寄与すること。 静岡県地域医療構想等を踏まえ、高度急性期*医療・教急医療を担う地域の基幹病院とし 者の状態の早期安定に向けた質の高い医療と手厚い看護を提供します。 また、地域の医療機関等との速やかな病病・病診連携により、患者が住み慣れた地域で自い春らしを送ることができるよう、地域包括ケアシステムの一翼を担い地域医療に貢献しま静岡医療圏における今後の人口減少や、高齢化に伴う医療ニーズの変化などを見据え、質医療を効率的に市民へ提供できる体制を目指します。静岡県地域医療構想を踏まえ、高度急療及び急性期医療を担う基幹病院として近隣医療圏からの救急患者の受入れにも努め、救急能や地域連携を充実・強化し、在院日数の短縮と病床回転率の向上により適正な入院期間をます。 老々介護やヤングケアラーなど退院困難なケースへ積極的に介入し、社会保障制度の活病・病診連携の推進など、在宅復帰に向けた取り組みにより入退院を支援します。また、地かりつけ医と共に疾患を管理する地域連携パス*(疾患卵病診連携の充実・強化など様々な医療ニーズ底と、医師の働き力改革*などによる医療提供体制の維持・確保の両立は難しく、計成は困難を、高度急性期医療の更なる推進と、限られた人員の有効的かつ効率的な配置等を目的としたHCU(ハイケアユニット)の増床や、入院決定から退院までの一貫した支援と地域の医療機関・施設との連携などにより、質の高い医療の提供を推進した。目標値は、地域連携パスについて若干目標値を下回ったものの計画の水準内であり、また、いずれの項目も前年度実績を上回っていることから、年度計画における所期の目標をおおむれ違域していると考え、「A」と評価した。 業務実績、評価理由 「の基幹病院として、静岡県地域医療構想を踏まえた当院の主たる役割を、急性期医療を担うこととし、診療体制の整備や医療の提供、地域の医療機関及び福祉施設等との連携に努めた。 度急性期医療を担うこととし、診療体制の整備や医療の提供、地域の医療機関及び福祉・施設等との連携に努めた。 原産・高度急性期医療の更なる推進と、限られた人員の有効的かつ効率的な配置と積極的な病床運用による稼働率の向上を図るため、HCU(ハイケアユニット)を東8 集約し、20 床から 30 床へ増床した。 入院期間 I 以内退院割合は、クリニカルパス*数の増加や各診療科との病院長とアリの関知、入退院支援室での早期退院に向けた取り組み等により、目標値を上回っための場所の表情を対する機関の表情を対する機関を構造した。 		

・地域連携パスを活用し、かかりつけ医との切れ目のない連携と治療経過の共有により、質の高い医療の提供体制を推進した。

目標値

75日	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度
項目	実績	実績	実績	目標	実績
DPC入院期間Ⅱ以内退院割合	66.3%	67.1%	66.1%	68.0%	69.8%
入退院支援加算算定件数	5,307件	5,426件	6,665件	5,500件	7,595件
地域連携パス (疾患別病診連携パス) 新規利用件数	314 件	526 件	362 件	450件	440件

参考値

項目		令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
重症度、医療・看護	養必要度Ⅱ	40.7%	39.8%	36.1%	36.6%
在宅復帰率		92.2%	97.8%	97.0%	97.4%
	高度急性期	451 床	500 床	355 床	306 床
医療機能別病床数	急性期	49 床	0床	145 床	194床

※医療機能別病床数 令和5年度算出方式

新静岡方式:従来の静岡方式を下記の内容へ変更した「定量的基準」(作成者:浜松医科大学小林特任教授)

高度急性期 ・特定入院料等区分(救命救急、ICU、HCU、NICU等)

・重症度、医療・看護必要度Ⅱ35%以上かつ平均在棟日数11日未満

急性期 ・上記を満たさない病棟

【評価理由】

急性期医療・高度急性期医療の更なる推進と、限られた人員の有効的かつ効率的な配置等を目的としたHCU (ハイケアユニット) の増床や、入院決定から退院までの一貫した支援と地域の医療機関・施設との連携などにより、質の高い医療の提供を推進した。目標値は、地域連携パスについて若干目標値を下回ったものの計画の水準内であり、また、いずれの項目も前年度実績を上回っていることから、年度計画の水準を満たしていると考え、「a」と評価した。

	(評価理由)	評価
市評価		

- 第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 - 1 地域における役割・機能と担うべき医療
 - (2) 静岡病院が担うべき医療(高度医療・専門医療等、救急医療、感染症医療、災害時医療)

(高度医療・専門医療等)

地域における心臓・血管疾患治療の中心的な役割を担ってきた伝統と実績を踏まえ、引き続き、高度で専門的な医療を提供すること。

また、地域がん診療連携拠点病院として、患者の病態に応じた先進的で質の高いがん医療を提供すること。

さらに、今後の医療需要の動向を注視しながら、市内の医療の提供状況や医療ニーズの変化に対応した医療を提供すること。

(救急医療)

本市の救急医療が逼迫する中、より高次な救急医療を担う体制を構築し、関係医療機関との連携・協力を一層推進することにより、市立病院として、引き続き、本市の救急医療体制の中心的な役割を担うこと。

中期目標(役割)

(感染症医療)

本県で唯一の第一種感染症指定医療機関として、感染症患者(第一類)の受入体制を維持するとともに、患者発生時においては市及び関係機関と連携し、入院治療等の対応を行うこと。

また、新興感染症患者の対応については、引き続き、関係機関と連携・協力しながら、地域の感染症医療における中核的な役割を果たすこと。これまでの経験をもとに、新興感染症等の感染拡大時の対応に資するよう平時からの機能整備に取り組むこと。

(災害時医療)

市民の安全・安心を守るため、災害拠点病院として、大規模災害の発生に備え、必要な人的・物的 資源を確保し、対応マニュアル等の整備及びこれに基づく訓練を行うこと。また、大規模災害発生 時には、迅速かつ的確に医療救護活動や人的・物的支援に努めること。

(高度医療・専門医療等)

「ハートセンター」、「大動脈・血管センター」を中心に、医療技術を駆使した低侵襲治療やハイブリッド治療等を提供し、心臓疾患、動脈・静脈疾患治療の地域における中核的な役割を担います。 地域がん診療連携拠点病院として、悪性腫瘍疾患に対する診断から集学的治療、緩和ケア*まで、患者の不安の軽減を図るとともに、QOLの向上を目指した総合的な医療とケアを提供します。

また、今後の医療需要の動向を踏まえ、様々な医療ニーズに対応した医療を提供します。

(救急医療)

初期救急から最重症の三次救急まで、幅広く安定した受入体制を維持し、「断らない救急」をモットーに24時間365日、救急車搬送患者を積極的に受け入れ、良質な救急医療を迅速に提供します。 (感染症医療)

中期計画

県内唯一の第一種感染症指定医療機関として、新興・再興感染症発生時には行政や保健所、地域の 医療機関等と連携・協力し、速やかな患者の受入れ・専門的な治療を行います。

新興・再興感染症の発生に備え、平時から関係機関との連携を確保するとともに、職員教育や受入 体制の整備及び感染対策に必要な医療材料の備蓄を行います。

また、新型コロナウイルス感染症重点医療機関として、有事における病床確保など、地域の感染症医療の中核的な役割を果たします。

(災害時医療)

災害拠点病院として、研修・訓練の実施や必要物品等の備蓄確認を行い、事業継続計画及び災害時 医療対応マニュアルに基づき、非常時においても継続して医療が提供できるよう努めます。

また、DMAT隊*(災害派遣医療チーム)の体制を維持し、災害時に必要な医療救護活動が実践できるよう備えます。

(高度医療・専門医療等)

当院の強みである「ハートセンター」、「大動脈・血管センター」を中心に、心臓疾患、動脈・静脈 疾患治療の地域における中核的な役割を担い、患者への負担が少ないカテーテルアブレーション*や 冠動脈インターベンション*(PCI)など高度専門医療を提供します。

年度計画

地域がん診療拠点病院の責務として、がん治療の専門性と多職種スタッフの技術・経験を最大限に活かし、PET-CTによるがん診断や保険適用が進む手術支援ロボットによる手術、化学療法・放射線治療を組み合わせた低・非侵襲的な集学的治療による高い治療効果を目指します。また、がん

相談支援センターを中心とした患者支援を展開し、地域医療機関とともに患者・家族が安心して治療・生活ができる診療連携体制を構築します。

(救急医療)

軽症患者から重症患者まで、24 時間 365 日体制でより多くの患者を受け入れる体制を維持し、継続的かつ安定的な「断らない救急医療」により市民の安心・安全な生活を支えます。

救急医療等の高度かつ専門的な医療及び高度急性期医療を提供するため、院内迅速対応チーム (RRT・・・Rapid Response Team) により、急激な病態変化へ速やかに対応し、患者に対する有害事象の軽減に努めます。

(感染症医療)

県内唯一の第一種感染症指定医療機関として、いち早く新型コロナウイルス感染症患者を受け入れた経験と実績を活かし、速やかな受け入れと適切な感染管理を引き続き実践します。

平時から行政機関及び近隣医療機関との連携を図り、新興・再興感染症の発生に備えるとともに、 継続的な職員教育や医療資材の確保等により、患者および職員を感染から守ります。

(災害時医療)

災害拠点病院として、総合防災訓練や情報伝達訓練など各種訓練の実施や非常用発電機の点検を 兼ねた電気設備点検、備蓄品の入れ替え等を行い、災害への備えを万全にしていきます。

今後、発災が想定される「南海トラフ地震」や、大型台風による豪雨災害時等に地域の医療機能を継続させるため、各種訓練への参加によりDMAT隊の技能向上と体制の維持に努めます。

	で心ができるにの、合性訓練、V/参加によりDMAIMVX配向上と体前の維持に分類	ノみり。			
困難度					
	(評価理由)		評価		
法人 自己評価	循環器内科と心臓血管外科の連携による高度・専門医療の提供や、「おなかのへルセンター」「肩・肘・手外科センター」の新設等により高度医療・専門医療の提供にた。救急医療では、初期救急から最重症の三次救急まで24時間体制で幅広く受け入れ標値である救急搬送応需率は目標値を上回った。感染症医療では職員の院内感染対策する基本的知識の習得を目的とした研修の開催や、近隣の関係機関との合同カンファス*の実施等により感染症患者の受け入れ体制の向上を図った。災害時医療では、各種の実施や備蓄品の更新、能登半島地震における医療救護活動など災害拠点病院として割を果たした。以上から年度計画における所期の目標をおおむね達成していると考「A」と評価した。	と努り の の の は に に い が は に に が は が は の が に の が に の が に の が に の が の に の が の の の の の の の の の の の の の	Α		
	業務実績、評価理由	重点	評価		
【実績】 ・ハート 血管外 で対応 ・大動脈 内科と	・血管センターでは、対象患者の高齢化が進む動脈疾患や静脈疾患に対して、循環器 心臓血管外科の連携による、カテーテル治療と外科治療を組み合わせた医療の提供に	0	а		
内科と心臓血管外科の連携による、カアーアル治療と外科治療を組み合わせた医療の提供に取り組んだ。 ・カテーテルアブレーション、冠動脈インターベンション、ロボット支援手術、内視鏡手術、がん化学療法が年々増加しており、患者に対して最適で低侵襲*な治療を積極的に取り組んでいる。 ・高齢化社会により増加している腹部のヘルニアについて、より専門性の高い医療を提供するため、新たに「おなかのヘルニアセンター」を設置した。 ・細分化され専門性の高い医療分野である、肩、肘、手について、より専門的な医療と機能回復に向けた適切なリハビリテーションを提供するため、新たに「肩・肘・手外科センター」を設置した。 ・地域がん診療拠点病院*として、これまでの豊富な治療実績や手術室の改装と手術支援ロボットの更新により、手術や放射線療法、化学療法などの集学的治療を継続して提供した。また、需要が増えている外来化学療法室について令和6年度の拡張に向けた整備を行っている。					

・がん相談支援センターでの窓口相談や「がん患者サロン葵」開催による患者・家族同士の交流による患者支援、病診がんカンファレンスや緩和ケア研修開催による診療連携体制の構築に努めた。

参考値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
カテーテルアブレーション件数	234 件	321 件	368 件	411 件
冠動脈インターベンション件数	439件	442件	388 件	477件
開心術件数	307件	267 件	212件	203 件
TAVI*	75件	97件	103件	101 件
ステントグラフト治療*件数	110件	117件	107件	130件
ロボット支援手術件数	90件	118件	131 件	152件
内視鏡手術件数	794件	1,002件	1,109件	1,187件
内視鏡検査数	3,929件	4,361件	4,805件	4,881件
PET/CT稼働件数	781 件	726 件	767 件	793 件
悪性腫瘍手術件数	735件	737件	771件	742件
がん化学療法延べ患者数	3,626 人	3,751人	3,827人	3,921 人

【評価理由】

循環器内科と心臓血管外科の連携による高度・専門医療の提供や、「おなかのヘルニアセンター」「肩・肘・手外科センター」の新設、がん診療での手術や放射線療法、化学療法などの集学的治療の提供など、年度計画の水準を満たしていると考え、「a」と評価した。

〇救急医療

【実績】

- ・救急科主任科長・救急治療室科長を責任者として、業務量に応じた看護師を配置し、他の診療科の医師などと協力して運営している。特定行為研修を受けた看護師の配置や輪番日におけるスタッフの増員などにより、二次医療*機関としての対応症例である重症患者のみでなく、初期救急から最重症の三次救急まで24時間体制で幅広く受け入れ、地域に信頼される医療の提供に努めた。
- ・救急搬送応需率 (実績値 97.6%) および救急車受け入れ台数は、静岡地域内公的 5 医療機関では最も高かった。やむを得ず不応需となった事例については、毎月開催する救急業務委員会にて一件ごと詳細に検証を行い、適正な救急患者受け入れに努めた。

静岡地域内公的5医療機関・・・静岡市立静岡病院、静岡県立総合病院、静岡済生会総合病院、静岡赤十字病院、

JA静岡厚生連静岡厚生病院

- ・各部署での急変時対応訓練や急変時対応の振り返り評価、院内急変迅速体制として RRT コールの設定により、24 時間患者の状態変化に迅速に対応できる体制を維持した。
- ・外部講師による院内救急講演会や蘇生トレーニング、小児急変対応研修の実施、臨床研修医*を対象とした救急車同乗研修などにより、医療従事者の救急現場でのスキル向上に努めた。 〈院内救急講演会(ハイブリッド開催)〉

第1回 7月14日 「意識障害に出会ったら@ER」(受講人数 21人)

第2回 11月24日 「高齢者救急」(受講人数 21人)

(第1回、第2回共) 講師: 国保旭中央病院 救急救命科 医長 坂本 壮氏

目標値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	令和5年度実績
救急搬送応需率	94.9%	97.5%	95.9%	95.0%	97.6%

参考值

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
救急患者数	10,720人	11,292人	12,958人	13,305 人
救急車搬送患者数	5,352人	5,875人	6,989人	7,548 人
地域救急貢献率	19.7%	19.6%	20.4%	20.6%

0 s

【評価理由】

二次医療*機関としての対応症例である重症患者のみでなく、初期救急から最重症の三次救急まで24時間体制で幅広く受け入れた。目標値である救急搬送応需率は目標値を上回るだけでなく、静岡地域内公的5医療機関で最も高く、市民の安心・安全な生活を支える役割の中心を担っていることから、年度計画の水準を上回る実績と考え、「s」と評価した。

〇感染症医療

【実績】

- ・医師、感染管理認定看護師*等で組織された感染管理室のもとに、感染制御チーム (ICT)、 抗菌薬適正使用支援チーム (AST) を設置し、それぞれ医師、看護師のほか薬剤師、臨床検 査技師を配置し感染症患者の受け入れ体制を維持した。
- ・病院長も参加する院内感染対策員会を毎月開催し、現状の把握と院内感染対策に関する事案の審議を行うほか、病院職員の院内感染対策に関する基本的知識の習得を目的とした研修を開催し、全職員を対象とした院内感染対策講演会の受講率は100%となった。

<院内感染対策講演会>

第1回 7月4日 第1部「薬剤耐性菌対策とCD感染症」

第2部「院内感対策としてのワクチン接種 何ができるか、何をすべきか」 (受講人数1,202人 受講率100%)

第2回 12月22日 第1部「抗菌薬を使う時、何を気にしますか?」

第2部「標準予防策 ーマスクと手洗いー」

(受講人数 1,176人 受講率 100%)

- ・5月8日から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に移行されたことにより、入院時のスクリーニング検査の終了と新型コロナウイルス感染症対策としての面会制限を解除した。
- ・紫外線照射による殺菌・消毒は、定型的な運用から必要時の運用へ見直したことにより、稼働実績は減少した。
- ・感染対策の更なる向上と地域の感染対策を推進するため、近隣の関係機関との合同カンファレンスや相互評価等を実施した。
 - ・静岡市感染症等の合同カンファレンス

(年4回開催 市内14病院、静岡医師会、清水医師会、静岡市保健所)

- ・ 感染対策向上加算に係る相互評価 (11月17日 静岡病院、静岡厚生病院)
- ・外来感染対策向上加算届出医療機関訪問カンファレンス

(11月28日、12月6日、7日 市内4病院)

参考値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
感染症対応用確保病床数 (最大確保数)	32 床	32 床	28 床	23 床
紫外線照射ロボット稼働実績	2,458 回	2,506 回	2,050 回	1,072 回
手指衛生用消毒液購入量	3, 765 ℓ	3, 386 l	2,830 l	2, 215 @
入院患者1人1日あたり病棟用購入量	18.6ml	18.9ml	17.4ml	13.8ml

【評価理由】

感染状況の把握や分析、病院職員の院内感染対策に関する基本的知識の習得を目的とした研修の開催、近隣関係機関との合同カンファレンスなどの実施により、感染対策の更なる向上や地域の感染対策を推進しており、年度計画の水準を満たしていると考え、「a」と評価した。

〇災害時医療

【実績】

・11 月に大規模災害時における多数傷病者受入れを想定したトリアージ訓練 (参加人数 113 人) を 実施した。また、災害時医療対応マニュアルの改善を図るため、部門別マニュアル検証訓練 (参加延べ人数 175 人) を実施した。

・緊急連絡メールによる情報伝達訓練を年4回実施した。(登録率98.9%)

s

0

а

- ・新規採用者を対象とした防火・防災設備研修(参加人数80人)、病棟での夜間火災を想定した消防防災訓練(参加人数65人)、部門別に消防出前講座(参加延べ人数82人)を実施し、職員の防災意識向上を図った。
- ・外部講師を招いて、病院における断水時の対応について院内講演会を開催し、豪雨災害時等 における職員の意識啓発を図った。

<院内講演会>

9月15日 「病院の1週間の断水を経験して我々が得たもの」(受講人数 91人)

講師:静岡市立清水病院 病院長 上牧 務氏

- ・医薬品や非常食の保存期限の確認を行い、飲料水等の備蓄品の入替えを行った。
- ・非常用発電機の点検は、点検項目を通常必要なレベルより追加することで、有事の際の安定 的な電力確保に努めた。
- ・1月1日に発生した能登半島地震では、静岡県及び静岡県看護協会からの出動要請により1月2日からDMAT隊等を派遣し、医療救護活動に従事した。

<主な活動内容>

- 1月2日~2月17日 静岡県DMAT調整本部へ従事(延べ27名) 被災地の情報収集や各DMAT隊との連絡調整など後方支援に従事。
- 1月5日~1月9日 第1陣DMAT隊派遣(医師1看護師2薬剤師1臨床工学技士1) 主に石川県鳳珠郡穴水町(ほうすぐんあなみずまち)で活動。被災直後の穴水町避 難所において、避難所のスクリーニング、物資支援等に従事。
- 1月20日~1月24日 第2陣DMAT隊派遣(医師1看護師2薬剤師1事務1) 主に石川県金沢市内で活動。珠洲市(すずし)から避難された被災者約120名 を対象にメディカルチェックや入退所管理に日当直体制で従事。
- 2月16日~2月19日 第3陣DMAT隊派遣

(医師1看護師1臨床工学技士1診療放射線技師1事務1) h 被災者のメディカルチェックとDMA工院権順

主に石川県金沢市内で活動。被災者のメディカルチェックとDMAT隊撤収 後に向けた現地医療活動チームとの業務調整に従事。

- 2月20日~2月23日 災害支援ナース派遣(看護師1) 主に石川県金沢市内で活動。避難所であるいしかわ総合スポーツセンターに て被災者のメディカルチェックに従事。
- ・DMAT隊の技能維持のため、中部ブロックDMAT実働訓練(山梨県甲府市)や技能維持研修 (愛知県名古屋市)、大規模地震時医療活動政府訓練(兵庫県淡路市)などへ参加した。また、新た に隊員養成研修へ5人が参加し、DMAT隊員を15人態勢(医師3看護師4薬剤師3臨床工学技士1診療放射線技師1管理栄養士1事務2)とした。

参考値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
防災訓練開催回数	4回	4回	4回	4回
DMAT隊チーム数	2チーム	2チーム	2チーム	2チーム

【評価理由】

災害拠点病院としての役割を果たすため、トリアージ訓練や部門別マニュアル検証訓練、情報伝達訓練など各種訓練を実施した。また、能登半島地震では、静岡県及び静岡県看護協会からの出動要請により、DMAT隊・災害支援ナースを派遣し医療救護活動に従事したことから、年度計画の水準を上回る実績と考え、「s」と評価した。

	(評価理由)	評価
市評価		

- 第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 - 2 患者の視点に立った信頼される医療の提供

(1) 患者中心の医療の推進

(1).	患者中心の医療の技	生進_						
中期目標	患者に信頼され もとに医療を提供		、診療情報を通	切に管理す	るとともに、	患者への十分	な説明る	に同意の
中期計画	患者自身や家族 コンセント*を行う いく、患者と医療	うことに加え、 者のパートナ	患者と医療者 ーシップの構築	が互いに尊 <u>፤</u> そを目指すこ	重し合い対等 とで、最善の	な協力者として 全人的医療を	て治療を 提供しる	と行って ます。
年度計画	患者・家族がよります。 患者の心と体に 療過程に参加でき	寄り添い、患	者・家族と医療	者が互いに	青報を共有し	、十分理解した		
困難度								
法人 自己評価	(評価理由) 多職種による相 権利」の策定や緩 の立ち上げなどに るための取組を行 「A」と評価した	和ケア看護師 より、病院と っており、年	を中心とした。 患者及びその3	A C P (アドバ 家族との相互	シス・ケア・プ	ランニング)検討 こ立った医療を	チーム 提供す	評価
	· 11」 C p p p 0 / C	_	実績、評価理日				重点	評価
【実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		応経と一文た知ん権い援一 で経なない、 に済どや病し、 でので、病員の利でする にまない。 はないで、 ので、 ので、 ので、 ので、 ので、 ので、 ので、 の	の専門職種や諸、入院や退院後、看護師や社会的に転院調整かしなべージ、入しては、新たいまでし、安心で、大を主体にその(アドバンス・ケブ	機関等ともi 後の生活上の 会福難なケー、 になった。 に作成・配った。 できる人として、 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる、 できる。 で。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 でる	連携し対応に対応に対応、退院外の地分、退院外のでは、退院外のでは、大が年々増え、内掲示なり、は、は、は、とかりに取りは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	努めた。 Eの調整、がん だいる。 でいる。 ・通しブッ び、 ・通しブッ び、 ・利、 が、緩和 ・ため、 緩和 数 39人)		а
参考値総合相談	項目	令和2年度実績 4,603 件	令和3年度実績 5,028 件	→ 1 年度実績 5,285 件	令和5年度実績 5,714 件			
(内訳)	退院調整 (在宅) 退院調整 (転院) 経済的な相談	52. 3% 27. 9% 7. 4%	50. 3% 29. 8% 7. 8%	49. 0% 30. 3% 5. 2%	45. 3% 27. 4% 3. 9%			

どもの患者 が検討チー	】 センターでの多職種による相談対応や、院内外の専門職種や諸機関等との連携、「こさんの権利」の策定や緩和ケア看護師を中心としたACP(アドバンス・ケア・ブランニン・ムの立ち上げなどにより、病院と患者及びその家族との相互の信頼関係に立った医療ための取組を行っており、年度計画の水準を満たしていると考え、「a」と評価し	
市評価	(評価理由)	評価

- 第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 - 2 患者の視点に立った信頼される医療の提供
 - (2) 医療安全対策

(2)	医療安全対策		
中期目標	患者に対し、安全・安心な医療を提供するため、職員全員が医療安全への意識を高め 医療事故・院内感染の予防や再発防止に向けた取組を組織的に行うこと。	かるとと	さもに、
中期計画	医療事故の予防や再発防止のため、インシデントレポート等による課題の収集や分材透明性を高め、誤認防止や転倒・転落防止など組織的な事故防止に向けた取組みを行い安全・安心で質の高い医療を提供するため、マニュアルの整備や医療スタッフの教育容の標準化に取り組み、知識と技術の向上を図ります。	ます。	
年度計画	医療事故の予防と再発防止のため、インシデントレポートによる報告を推進し、医会を中心に要因を分析するとともに防止策の立案に努めます。他の医療機関との連や、職種横断的な職員研修により医療安全対策の強化に向けた取組みを行います。 疾患別の治療プロセスについてクリニカルパス*(標準診療計画)を定め、治療内容の改療の実現、患者へのインフォームドコンセントへの活用など、質の高い安全な医療を提	携体制	の構築
困難度			
法人 自己評価	(評価理由) 職員を対象とした講演会や勉強会の開催、患者誤認防止強化月間の取り組み、近隣 関と連携した医療安全相互チェックの実施、クリニカルパスの作成などにより、医療策の推進と更なる向上に努めた。インシデントレポートの目的や必要性を職員に周知標値であるインシデントレポート件数の達成率は 130.2%となり、年度計画における 同標を上回る成果が得られていると考え、「S」と評価した。	安全対 し、目	評価
	業務実績、評価理由	重点	評価
〇医療安全 【実績】	全対策強化に向けた取り組み	O	S
・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	全管理者、医療機器安全管理者、放射線安全管理者を配置し、組織横断的に医療安全 こ取り組んだ。ミーティングを週1回開催し、医療安全に関する情報を共有した。・転落、注射、チューブ管理等9つの医療安全作業部会を組織し、インシデント*の分 改善、マニュアルの見直し等を随時行い、月に1~2回発行する「医療あんぜん情報」 び文書配布等により職員へ周知した。 事故に至らなかった事例をより多く収集し、事例の共有や防止策の検討・実施により事故の防止に努めた。「医療あんぜん情報」や研修会等でインシデントレポートの目的要性を説明し、職員の安全意識を高めたことにより、目標値を超えるインシデントレトの件数 (達成率130.2%) に繋がった。 を患者誤認防止強化月間とし、患者対応をする 35 部署 1,173 人を対象に業務終了時のフチェックを実施し、業務フローの再確認と意識向上を図った。(回収率90.0%) 安全対策の推進と更なる向上を図るため、当院と静岡市立清水病院、清水駿府病院の完で連携し、院内ラウンドによる医療安全相互チェックを実施した。 7月6日(木) チェック対象病院:静岡市立清水病院 3月12日(金) チェック対象病院:静岡市立清水病院 3月12日(火) チェック対象病院:清水駿府病院 20月12日(火) チェック対象病院:清水駿府病院 30月12日(火) チェック対象病院:清水駿府病院 30月12日(火) チェック対象病院:清水駿府病院 30月12日(火) チェック対象病院・清水駿府病院 30月12日(火) チェックを実施した。 40日12日は、40日12日は		

・診療プロセスの標準化と患者・家族等へのわかりやすい情報の提供を目指し、診療ガイドラインに沿ったクリニカルパスを多職種により作成した。定期的な見直しとバリアンス分析に取り組み医療の質の改善に努めた。

目標値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	令和5年度実績
インシデント レポート件数 (※)	2,140件	2, 194件	2,702件	2,200件	2,865件

※ 続発症含む

参考値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
入院患者の転倒・転落発生率	0. 22%	0.26%	0.28%	0. 28%
医療安全作業部会開催回数	33 回	33 回	43 回	52 回
クリニカルパス数	74	126	166	207

【評価理由】

職員を対象とした講演会や勉強会の開催、患者誤認防止強化月間の取り組み、近隣医療機関と連携した医療安全相互チェックの実施やクリニカルパスの作成などにより、医療安全対策の推進と更なる向上に努めた。インシデントレポートの目的や必要性を職員に周知し、目標値であるインシデントレポート件数の達成率は130.2%となり、年度計画の水準を上回る実績と考え、「s」と評価した。

Ī		
	(評価理由)	評価
市評価		

- 第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 - 2 患者の視点に立った信頼される医療の提供
 - (3) 患者サービスの向上

(3)	患者サービスの向上		
. j. jim s. /	日頃から患者のニーズを意識し、対応策や改善策を迅速かつ的確に講ずることで、		
中期目標	上を図ること。また、職員一人ひとりが、患者に寄り添った応対ができるよう、職員	員の接退	島向上を
	図ること。	III) 47.	
. I. Iba - I	患者及び家族等の立場に立ったサービスを提供するため、日頃から患者ニーズの把		, ,
中期計画	また、寄せられた意見を取り入れ、継続的な改善活動に取り組むとともに、研修の	美施等(こより、
	病院に携わる全てのスタッフの接遇能力向上に努めます。	<u>г </u>	Y. 77
	患者満足度調査や提案箱への意見から患者ニーズの把握に努め、職種を横断した	ーカイセ	ピン」活
年度計画	動を推進し、より良い病院運営を目指します。	31.01	ト ナ)ァ ト
	院内掲示等による患者・家族へのフィードバックのほか、院内広報誌等による職員	₹とのチ	と 作によ
	り、職員の意識改革を促し患者満足度の更なる向上に努めます。		
困難度			
	(評価理由)		評価
\ /+	「患者満足度カイゼンWG」を組織し、患者満足度調査の結果から課題を抽出し、	会計待	
法人	ち時間の短縮や接遇の向上、案内表示の改善などに取り組んだ。目標値である患者満	足度	Α
自己評価	は、入院・外来共に目標値を上回っており、年度計画における所期の目標をおおむね	達成し	_
	ていると考え、「A」と評価した。		
	業務実績、評価理由	重点	評価
○患者サー	ービス向上に向けた取り組み		
【実績】		0	а
・院内	9 か所に提案箱を設置し、毎週回収した意見・要望は内容に応じて担当部署へ振り分		
け、	対応策の検討・実施を行った。内容は運営会議および各部門連絡会議を通じて職員に		
周知	し、患者・家族には院内掲示でフィードバックしている。		
	満足度調査を 11 月に実施した。(入院 11 月 6 日~19 日、外来 11 月 13 日~17 日) 入院・外来あ		
	て 1,492 枚配布し、回収は 1,082 枚 (回収率 72.5%) であった。男女比では男性 52.7%、		
	47.3%、年代別では70歳代33.1%、80歳以上20.7%、60歳代20.4%と約7割が60		
	上であった。		
	直である入院患者満足度は 91.6% (達成率 101.8%)、外来患者満足度は 89.6% (達成率 101.8%) (基本性により、101.8%) (基本性により、101		
	ると目標値を上回る結果となった。「患者満足度カイゼンWG」を組織し、患者満足		
	査の結果から課題を抽出し、患者満足度の向上に取り組んだ。 今記44.5 時間の何第2		
<u> </u>	会計待ち時間の短縮> - 会計窓口周辺のレイアウト変更による混雑の緩和と動線の整備、外来スタッフ向け		
	云計念口周辺のレイナリト変更による低無の緩和と動縁の整備、外来へダッノ同り のコスト算定勉強会の実施などにより、平均待ち時間は8分5秒(前年度10分31秒)		
	に短縮。満足度調査での会計待ち時間に関する評価は3.6 (前年度3.3) に改善され		
	に必相。何足反明且、20元前行の時間に関する計画は3.0(前午及3.3)(に以告された。		
<	A I 問診・OCR導入による外来診察待ち時間の短縮>		
` .	問診内容やお薬手帳の内容等の電子カルテへの手入力を、AI問診やOCRを導入		
	することでコピー&ペーストを可能とし、診察待ち時間の短縮を図った。システム		
	の構築や業務フローの見直しを行い、口腔外科で部分的に導入を始めた。今後は導		
	入後の成果を確認しながら、利用の拡大を進める。		
<:	外来診察待ち時間の対応>		
	順番表示が各科待合でしか確認できないため、YouTube で配信することで、待ち時		
	間に対する不満の解消を図った。外科・消化器外科と消化器内科で試行したが、1		
	日平均利用人数は3.8人~7.6人と少なく、年齢は60歳未満が78.3%と高齢者の利		
	用率も低かった。利用者アンケートでは順番以外の表示が多い、年配の方は使いに		
	くい等の意見もあり YouTube での配信を終了した。今後は他の改善策を検討する。		
< 7	妾遇の向上>		
	一般的なビジネスマナーではなく医療機関に特化した研修内容とした。開催日程を		
1	増やし、e-ラーニングを併用することで受講者数の向上を図った。		
		1 1	

-接遇講演会-

11月1日(水)、2日(木)、9日(木)、14日(火)、15日(水) ほか 基礎編「医療機関に求められる接遇とは 等」 確認編「クレーム・苦情を未然に防ぐコミュニケーション等」

講師: ㈱ニチイ学館 医療関連事業本部

ブランディングアドバイザー 疋田 早苗 氏

(受講人数 1,044 人 受講率 93.5%)

<案内表示の改善>

患者アンケートに、主に西館から売店と駐車場への案内表示がわかりづらいとの意見が複数寄せられていた。あらためて動線を確認し、西館地階から12階までの各フロアへ、新たに売店までの案内表示を作成し更新した。また、駐車場への案内表示についても自発光式のものを新たに増設した。

目標値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	令和5年度実績
入院患者満足度(※)	90.9%	87.2%	89.8%	90.0%	91.6%
外来患者満足度(※)	86.0%	80.1%	83. 7%	85.0%	89.6%

参考値

	項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
入院患者満	足度 (※) (接遇項目のみ)	89.1%	86.8%	92.9%	92.9%
外来患者満	足度 (※) (接遇項目のみ)	86.8%	82.2%	87.3%	87.5%
提案箱投書	件数	127 件	128 件	94件	106件
	苦情	42.5%	44.5%	45.7%	54.7%
(4.3p)	提案、要望	41.0%	32.8%	29.8%	18.9%
(内訳)	感謝、お褒め	16.5%	20.3%	24.5%	24.5%
	その他	0.0%	2.4%	0.0%	1.9%

^{※「}満足」以上とした割合

【評価理由】

「患者満足度カイゼンWG」を組織し、患者満足度調査の結果から課題を抽出し、会計待ち時間の短縮や接遇の向上、案内表示の改善などに取り組んだ。目標値である患者満足度は、入院・外来共に目標値を上回っており、年度計画の水準を満たしていると考え、「a」と評価した。

	(評価理由)	評価
市評価		

- 第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 - 3 医療従事者の確保と働き方改革
 - (1) 医療従事者の確保

(1)	医療従事者の確保		_
h#10 +#	持続可能な地域医療の確保のため、優れた知識と専門性を有する医療従事者の確保 と。	 保に努	めるこ
中期目標	特に医師については、教育研修・研究機能の充実や勤務環境の整備等により、中長期 人材の確保に努めること。	期的な	視野で
中期計画	高度医療・専門医療、救急医療等の安定的な提供を図るため、医師、看護師など医療保に努めます。 特に医師については、大学等関係機関との連携やセミナーの開催等により教育・研修		
	させ、医師の確保と育成を推進します。		
年度計画	高度医療・専門医療、救急医療等の安定的な提供を図るため、医師、看護師など医療保に努めます。 新専門医制度における内科、外科及び麻酔科の基幹病院として、専攻医の確保と育す。また、その他の診療科についても連携施設として積極的に専攻医の受入れを行いま看護専門学校や大学などの養成機関との連携強化や随時募集により、医療環境や業務	育成に きす。	努めま
困難度	応じた柔軟な看護師の確保、配置に努めます。 医師や看護師の確保は、厳しい勤務環境とワークライフバランスの両立の難し 非常に困難な状況にあり、計画の達成が困難と考え困難度を「高」とした。	しさな	どから
	升市に四無な朳仇にめり、計画の達成が凶無と考え凶無及を「同」とした。 (評価理由)		評価
法人 自己評価	県外の大学や看護専門学校への訪問、就職説明会への参加や積極的な看護実習の受けれなど看護師確保に取り組んだ。医師確保では見学生の受け入れや静岡市主催の合同記会への参加などに取り組み、必要な医療を提供するための医療従事者を確保しており、度計画における所期の目標をおおむね達成していると考え、「A」と評価した。	説明	A
		重点	評価
O医療従	事者確保に向けた取り組み	主灬	н і Ішц
各見は大繋市一専見看病もる看に大繋市一専見看病もる看	法や施設基準*上、必要な人員を確保している。定員は各職種・部門ごと決めており、 引から出された増員要求を査定した上で採用をすすめ、中途採用も行っている。 上の要望にあわせ、個別に丁寧な対応を行い満足度を高めたことなどから、病院見学 F度から約70人増となる213人(浜松医科大学44人、京都大学10人、国際医療福祉大学・北海道 人など)を受け入れた。研修医・専攻医の確保へ積極的に取り組み、受験者数の増加に	0	а

参考値

	項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
医師・雄	科医師数	158 人	163 人	167 人	169 人
	(うち、専攻医数)	(21人)	(29 人)	(35人)	(29 人)
	(うち、研修医数)	(25人)	(26人)	(26人)	(27 人)
助産師・	看護師数	517人	533 人	528 人	526 人
医療技術		170 人	169 人	170人	174 人
各種専門]資格を有する職員数	125 人	125 人	126 人	138 人
	医師・歯科医師	93 人	92 人	92 人	102 人
	助産師・看護師	14 人	16人	18人	19 人
	医療技術員数 (※)	18 人	17 人	16 人	17 人

[※] 医療技術員···薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、 視能訓練士、臨床工学技士、歯科衛生士

【評価理由】

県外の大学や看護専門学校への訪問、就職説明会への参加や積極的な看護実習の受け入れなど看護師確保に取り組んだ。医師確保では見学生の受け入れや静岡市主催の合同説明会への参加などに取り組み、必要な医療を提供するための医療従事者を確保しており、年度計画の水準を満たしていると考え、「a」と評価した。

	(評価理由)	評価
市評価		

- 第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 - 3 医療従事者の確保と働き方改革
 - (2) 医療従事者の働きやすい環境づくり

(2)	医療従事者の働き	やすい環境つ	<u> </u>					
中期目標	医療従事者の関務形態の整備など					り、勤務負担の ・労働規制には、		
	ること。							
	医療従事者が傾	康で安心して	「働くことがて	できるよう、糞	動務状況の把握	屋や定期健康診断	断・スト	レス
中期計画	チェック等の実施	豆により、職場	景環境の整備に	こ努め、働きる	やすい環境づく	くりを目指しまっ	す。	
	· '					必書の適正な配置		より、 🛭
	師をはじめ職員の							
	職員が心身とも							
	改革などをより一							
	の整備及び処遇改							
生中乳面	を進めるなど質の)高い医療のか	是供と医療現.	易の新たな側	さ力を日指し	、病院の各部門	りか総ノ	Jをめに
干渂訂画	て取り組みます。 働き方改革関連	対の拡行に	水戸 時昌永	年5日の年別	右公休暇なな	実生に助俎よる)	1 لجدا ما	z 909
	年4月から適用さ							
	種間の連携、各種							
	用等により、時間						- 121 N.N.	XIXI V > II
	. 質の高V					で職員の勤務環境	意の改意	É・整 値
困難度					図難度を「高」			J 112//
	(評価理由)				· · · · · · · · · · · · · · · ·	-		評価
>/4- I	令和6年度から	の医師の働き	き方改革開始に	こ向け、医師領	労働時間短縮語	計画の策定やマ	ニュア	
法人	ルの整備により手	続きを完了し	た。目標値の	のうち有給休暇	段の年間取得	日数は計画の水	準を満	Α
					仕田しわった。	だ 十日揺の田	歴 庄 ナ、	_
自己評価	たす実績、医師の)平均時間外勤	防務時間数は記	計画を下回る約	陌来となった/	の、本日棕の四	無浸で	
目己評価	たす実績、医師の 考慮し、「A」と		動務時間数は記	計画を下回る約	后来となりに/	の、平日保の四	無皮を	
目己評価		評価した。	助務時間数は記 務実績、評価理		福米となりに/	か、平日信の四	無反を	評価
○働きやす		評価した。			「木となりに	か、平日信の四	ı	評価
○働きやす 【実績】	考慮し、「A」と すい環境の整備	評価した。 業務	8実績、評価5	里由			ı	評価 a
○働きやす 【実績】 ・目標値	考慮し、「A」と すい環境の整備 直である有給休暇の	評価した。 業務 の年間取得日数	务実績、評価型 数は 12.3 日(里由 達成率 96.9%)	となった。墹	種別では医師	重点	
O働きやす 【実績】 ・目標値 や医療	考慮し、「A」と記すい環境の整備 直である有給休暇の 療技術員の取得は記	評価した。 業務 か年間取得日数 が年実績を上回	务実績、評価理 数は 12.3 日(回ったが、看詞	里由 達成率 96.9%) 護 師の取得日	となった。 職 数は減少となっ	種別では医師った。また、	重点	
O働きやす 【実績】 ・目標値 や医療 医師の	考慮し、「A」と すい環境の整備 直である有給休暇の 療技術員の取得は前 の平均時間外勤務時	評価した。 業務 の年間取得日数 前年実績を上頃 時間数は、48.	务実績、評価理 数は 12.3 日(回ったが、看詞	里由 達成率 96.9%) 護 師の取得日	となった。 職 数は減少となっ	種別では医師った。また、	重点	
O働きやす 【実績】 ・目標値 や医療 医師の が前句	考慮し、「A」と すい環境の整備 値である有給休暇の 寮技術員の取得は の平均時間外勤務時 年度と同水準で推利	評価した。 業務 か年間取得日数 前年実績を上順 寺間数は、48. 多した。	多実績、評価理 数は 12.3 日(回ったが、看記 6 時間/月(近	里由 達成率 96.9%) 護師の取得日 ^達 成率 94.7%)	となった。職 数は減少とな と目標を達成	種別では医師 った。また、 できなかった	重点	
O働きやす 【実績】 ・程標係 を師が が ・令和 6	考慮し、「A」と記すい環境の整備 値である有給休暇の 療技術員の取得は前 の平均時間外勤務時 年度と同水準で推和 6年4月からの医的	評価した。 業務 か年間取得日数 が年実績を上い 寺間数は、48. 多した。 の働き方改造	多実績、評価型 数は 12.3 日 (可ったが、看記 6 時間/月 (記 革開始に向け、	里由 達成率 96.9%) 護師の取得日 達成率 94.7%)	となった。 職数は減少となると目標を達成間短縮計画の	種別では医師 った。また、 できなかった 策定を始め、	重点	
O働きやす 【実績】 ・ や医腫の が 令 か か つ シスラ	考慮し、「A」と記すい環境の整備 値である有給休暇の 療技術員の取得は認 の平均時間外勤務時 年度と同水準で推移 6年4月からの医能 テムの一部改修や質	評価した。 業務 か年間取得日数 前年実績を上頃 寺間数は、48. 多した。 雨の働き方改革 動務間インター	族実績、評価理 数は 12.3 日(回ったが、看記 6 時間/月(近	里由 達成率 96.9%) 護師の取得日 達成率 94.7%) 医師労働時 代償休息の	となった。職数は減少となると目標を達成 間短縮計画の領付与、長時間	種別では医師 った。また、 できなかった 策定を始め、 労働が見込ま	重点	
O働きやす 【実績】 ・ も 医師 何 ・ か	考慮し、「A」と記すい環境の整備 直である有給休暇の 療技術員の取得は記 の平均時間外勤務時 年度と同水準で推移 6年4月からの医的 テムの一部改修や質 医師への面接指導等	評価した。 業務 か年間取得日数 前年実績を上い 寺間数は、48. 多した。 雨の働き方改造 助務間インター 等に関する運用	8実績、評価型 数は 12.3 日(回ったが、看 6 時間/月(を開始に向け、 ーバルの確保、 用を定めたマン	理由 達成率 96.9%) 護師の取得日 達成率 94.7%) . 医師労働時 . 代償休息の作	となった。 職数は減少となった。 職数は減少となった。 世標を達成 と目標を達成 間短縮計画の 付与、長時間 たに整備し、 「	種別では医師った。また、 できなかった 策定を始め、 労働が見込ま 医療機関勤務	重点	
O働きをする 【実 ・ や 医 が 令 シ れ 環 ・ な ほ う	考慮し、「A」と記すい環境の整備 直である有給休暇の 療技術員の取得は記 の平均時間外勤務時度と同水準で推移 6年4月からの医的 テムの一部改修や質 医師への面接指導等 評価センターの受容	評価した。 業務 か年間取得日数 前年実績を上い 寺間数は、48. 多した。 雨の働き方改造 助務間インター 等に関する運用	8実績、評価型 数は 12.3 日(回ったが、看 6 時間/月(を開始に向け、 ーバルの確保、 用を定めたマン	理由 達成率 96.9%) 護師の取得日 達成率 94.7%) . 医師労働時 . 代償休息の作	となった。 職数は減少となった。 職数は減少となった。 世標を達成 と目標を達成 間短縮計画の 付与、長時間 たに整備し、 「	種別では医師った。また、 できなかった 策定を始め、 労働が見込ま 医療機関勤務	重点	
O働きをする 【実・ものをある。 「は、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	考慮し、「A」と記すい環境の整備 直である有給休暇の 療技術員の取得は記 の平均時間外勤務時 年度と同水準で推移 6年4月からの医的 テムの一部改修や質 医師への面接指導等	評価した。 業務の年間取得日期 前年実績を上順 時間数は、48. 多した。 市の働き方改革 か務間インター 等に関する運用 番を経て、静岡	海実績、評価で 数は 12.3 日(回ったが、看記 6 時間/月(近 年開始に向け、 一バルの確保、 用を定めたマニ 間県へ特定労	理由 達成率 96.9%) 護師の取得日 達成率 94.7%) 医師労働時 代償休息の ニュアルを新 務管理対象機	となった。職数は減少となると目標を達成間短縮計画の領付与、長時間に整備し、「関の指定申請	種別では医師った。また、 できなかった 策定を始め、 労働が見込ま 医療機関勤務 を行い全ての	重点	
O働実は ・ ・ き績目や医が令シれ環手看 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ の は き に の り り り り り り り り り り り り り り り り り り	考慮し、「A」と記すい環境の整備 すい環境の整備 値である有給休暇の 療技術員の取得は認 の平均時間外勤務時 年度と同水準で推移 6年4月からの医的 テムの一部改修や動 医師への面接指導等 評価センターの受得 きを完了した。	評価した。 業務 か年間取得日期 前年実績を、48. 時間数は、48. 多した。 市の働き方ひき 助務間する。 等に関する。 番を経て、静岡	8実績、評価理 数は 12.3 日 (可ったが、看 6 時間/月 (下開始に向け、 一バルの確保、 用を定めたマニ 岡県へ特定労	理由 達成率 96.9%) 護師の取得日 達成率 94.7%) . 医師労働時 . 代償休息の ニュアルを新 落管理対象機 までに 19 人が	となった。職数は減少となると目標を達成間短縮計画の質け与、長時間にを確し、「関の指定申請が研修を修了し	種別では医師った。また、できなかった 策定を始め、 労働が見込ま 医療機関勤務 を行い全ての た。医療行為	重点	
O働実は ・ ・ き績目や医が令シれ環手看 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ の は き に の り り り り り り り り り り り り り り り り り り	考慮し、「A」と記すい環境の整備 直である有給休暇の 療技術員の取得は記 の平均時間外勤務時 年度と同水準で推移 6年4月からの医的 テムの一部改修や質 医師への面接指導等 を完了した。 師特定行為研修は行 スクシフトとして行	評価した。 業務 か年間取得日期 前年実績を、48. 時間数は、48. 多した。 市の働き方ひき 助務間する。 等に関する。 番を経て、静岡	8実績、評価理 数は 12.3 日 (可ったが、看 6 時間/月 (下開始に向け、 一バルの確保、 用を定めたマニ 岡県へ特定労	理由 達成率 96.9%) 護師の取得日 達成率 94.7%) . 医師労働時 . 代償休息の ニュアルを新 落管理対象機 までに 19 人が	となった。職数は減少となると目標を達成間短縮計画の質け与、長時間にを購し、「関の指定申請が研修を修了し	種別では医師った。また、できなかった 策定を始め、 労働が見込ま 医療機関勤務 を行い全ての た。医療行為	重点	
O働実・ き績目や医が令シれ環手看のに でのは、 でのは、 でのは、 でのは、 でのは、 でのは、 でのは、 でのは、	考慮し、「A」と記すい環境の整備 直である有給休暇の 療技術員の取得は記 の平均時間外勤務時 年度と同水準で推移 6年4月からの医的 テムの一部改修や質 医師への面接指導等 を完了した。 師特定行為研修は行 スクシフトとして行	評価した。 業務 か年間取得日期 前年実績を上順 時間数に、48. 多した。 市の側間インる運り 等に関すて、静岡 合和2年度の間 特中麻酔管理の	海実績、評価型 数は 12.3 日(回ったが、看記 6 時間/月(記 年開始に向け、 一バルの確保、 用を定めたマン 開講からこれ。 や創傷管理の一	理由 達成率 96.9%) 護師の取得日 達成率 94.7%) (医師労働時) (代償休息の (ニュアルを新) (第管理対象機) までに19人が 一部などを担い	となった。職数は減少となった。職数は減少となった。職数は減少とないます。 と目標を達成間短縮計画の領 付与、長時間に たに整備し、「 関の指定申請 が研修を修了しい、 医師業務の	種別では医師った。また、できなかった。 策定を始め、 労働が見込務 を行い全ての た。医療行為 の負担軽減等	重点	
O【実・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	考慮し、「A」と記すい環境の整備 すい環境の整備 直である有給休暇の 療技術員の関外勤務時 再度と同外動等で 10年4月からのとの 10年4月からの後で 10年4月からの後で 10年4月がよりに 10年4月がよりに 1	評価した。 業務 か年間積減、48. か年実績は、5方ンの間間関経である。 がある。またがある。 がある。またがある。 がある。またがある。 がある。またがある。 では、15では、15では、15では、15では、15では、15では、15では、15	多実績、評価理 数は12.3日(到ったが、看記 6時間/月(選 事開始にの確保、 刊をでは、 刊をでは、 日本をでは、 日本には、 日、 日、 日、 日、 日、 日、 日、 日、 日、 日、 日、 日、 日、	里由 達成率 96.9%) 護師の取得日 達成率 94.7%) . 医師労働時 . 代償休息の . 二ュアション . 医管理対象機 までに19人が 一部などを担い まずなど) 時には対応可	となった。職数は減少とを 数は減少と達成 間短縮計画の領 付与、整備し、関 がいたを でを で た で た で た で た で た で で で で で で で	種別では医師った。また、できなかった 策定を始め、ま 繁働が見込事務を行い全ての た。医療行為 の負担軽減等 た場合等の院	重点	
O【実・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	考慮し、「A」と記すい環境の整備 直である有給休暇の 療技術員の取り 所である有給休暇の 療技術員の別外 である有給休暇の 療技術員の別外 である有給休暇の をであるのの別外 を手度と同からの修物 を年4月からの修物 を一のののののののののののののののののののののののののののののののののののの	評価した。 業務 か年間積減、48. か年実績は、5方ンの間間関経である。 がある。またがある。 がある。またがある。 がある。またがある。 がある。またがある。 では、15では、15では、15では、15では、15では、15では、15では、15	多実績、評価理 数は12.3日(到ったが、看記 6時間/月(選 事開始にの確保、 刊をでは、 刊をでは、 日本をでは、 日本には、 日、 日、 日、 日、 日、 日、 日、 日、 日、 日、 日、 日、 日、	里由 達成率 96.9%) 護師の取得日 達成率 94.7%) . 医師労働時 . 代償休息の . 二ュアション . 医管理対象機 までに19人が 一部などを担い まずなど) 時には対応可	となった。職数は減少とを 数は減少と達成 間短縮計画の領 付与、整備し、関 がいたを でを で た で た で た で た で た で で で で で で で	種別では医師った。また、できなかった 策定を始め、ま 繁働が見込事務を行い全ての た。医療行為 の負担軽減等 た場合等の院	重点	
O【実・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	考慮し、「A」と記すい環境の整備 すい環境の整備 直である有給休暇の 療技術員の関外勤務時 再度と同外動等で 10年4月からのとの 10年4月からの後で 10年4月からの後で 10年4月がよりに 10年4月がよりに 1	評価した。 業務 か年間積減、48. か年実績は、5方ンの間間関経である。 がある。またがある。 がある。またがある。 がある。またがある。 がある。またがある。 では、15では、15では、15では、15では、15では、15では、15では、15	多実績、評価理 数は12.3日(到ったが、看記 6時間/月(選 事開始にの確保、 刊をでは、 刊をでは、 日本をできます。 日本では、 日本では 日本では、 日本では 日本では 日本では 日本では 日本では 日本では 日本では 日本では	里由 達成率 96.9%) 護師の取得日 達成率 94.7%) . 医師労働時 . 代償休息の . 二ュアション . 医管理対象機 までに19人が 一部などを担い まずなど) 時には対応可	となった。職数は減少とを 数は減少と達成 間短縮計画の領 付与、整備し、関 がいたを でを で た で た で た で た で た で で で で で で で	種別では医師った。また、できなかった 策定を始め、ま 繁働が見込事務を行い全ての た。医療行為 の負担軽減等 た場合等の院	重点	
O【ま・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	考慮し、「A」と記すい環境の整備 直である有給休暇の 療技術時間外事である 育をと同からのでは である。 である有給休暇の 療技術時間が準のを をよりである。 を年4月からのを指すのでののののののののののののののののののののののののののののののののできる。 をいるののでは、 である。 である有給休暇の である有給休暇の である有給休暇の をであるののののでは、 であるの対応になる。 である有給休暇の をはずれる。 であるの対応になる。 であるの対応にする。 であるの対応でする。 であるの対応でする。 であるの対応でする。 であるの対応でする。 であるの対応でする。 であるのがでする。 であるである。 であるであるである。 であるであるであるである。 であるであるである。 であるであるである。 であるであるである。 であるであるであるである。 であるであるであるであるである。 であるであるであるであるである。 であるであるであるである。 であるであるであるであるであるであるである。 であるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるで	評価した。 業務 か年年実数に 前年実数に動間関経を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	多実績、評価理 数は12.3日(到ったが、看記 6時間/月(記 年期始にの確たに 用をを 中が定めを定 期講像管理の 間で、 間で、 間で、 間で、 間で、 間で、 に のの に のの に のの に のの に のの た のの た のの た の	里由 達成率 96.9%) 護師の取得日 達成率 94.7%) . 医(質体) . 医(質体) . 医(質が) . 医ではかり . とではいるがです。 まではいるがです。 まではいるがです。 まずいるがです。 まずいるがでする。 というではいるがです。 というではいるができます。 というでは、 というでは、 というでは、 というでは、 というでは、 というでは、 というでは、 というでは、 というでは、 というでは、 というでは、 というでは、 というでは、 といるで	となった。職数は減少とを 数は減少と達成 間短縮計画の領 付与、整備し、関 がいたを でを で た で た で た で た で た で で で で で で で	種別では医師った。なかった。なから、またが、まではというではをがりまた。 医療が関系を行い 医療減ををいた。 医軽減 のりまり では、 は、 は	重点	
O【ま・ とのでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、	考慮し、「A」と記すい環境の整備 直である有の事情を 直である員間が進行を を存すとは、「A」と記すいる。 を存する有のでは、 を存するのでは、 を存するのでは、 を存するのでは、 を行うないでは、 である。 を行うないでは、 である。 を行うないでは、 である。 を行うないでは、 である。 である。 を行うないでは、 である。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 で	評価した。 業務 か年年実数に 前年実数に動間関経を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	等実績、評価理 数は12.3日(数 日では、 日本には、 も、 日本には、 日本には、 日本には、 日本には、 日本には、 日本には、 日本には、 日本には、 日本には、 日本には、 日本には、 日本には、 日本には、 日本には、 日本には、 日本には、 日、 日、 日、 日、 日、 日、 日、 日、 日、 日、 日、 日、 日、	理由 達成率 96.9%) 護師の取得日報 達成率 94.7%) . 医(質) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大	となった。職 数は標を達成 間短縮計長を達成 間短縮計長時 でを整備 をが、 でを を が、 で た で た で た で た で た で の が を が の が を が の が で の が の た の た の た の た の た の た の た の た の た	種別では医師った。なかった。なかった。なからというでは要が、要なが見動ではをがり、またのののでは、またのののでは、またのののでは、またのののでは、ないでは、ないでは、またののでは、ないでは、またののでは、またののでは、またののでは、またののでは、またののでは、またのでは、	重点	
O【ま・ とのでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、	考慮し、「A」と記すい環境の整備 値である有給体限の 直である員間外準のを 音技が時間がある。 を年4月一ののターとの を毎年のののかでである。 を一つのからでは がある。 を一つのがでする。 を一つのがでする。 である。 を一つのがでする。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 であ	評価した。 業務の年間を 一般に 一般に 一般に 一般に 一般に 一般に 一般に 一般に 一般に 一般に	等実績、評価理 数は12.3日(数 日では、 日本には、 も、 日本には、 日本には、 日本には、 日本には、 日本には、 日本には、 日本には、 日本には、 日本には、 日本には、 日本には、 日本には、 日本には、 日本には、 日本には、 日本には、 日、 日、 日、 日、 日、 日、 日、 日、 日、 日、 日、 日、 日、	理由 達成率 96.9%) 護師の取得日 達成率 94.7%) . 医() () () () () () () () () () () () () (となった。職数は減少を達成間短縮計・時間に関いてはない、で危険を断している。 でたい でた で で で な 事 務 に で な 事 な ま な ま な ま な ま な ま な ま な ま な ま な ま	種別では医師った。なかった。なから、ま変をが見関ではをがられる。を始め込動では、ためい、まないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、	重点	

参考値

	項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
有給休暇	段の年間取得日数(医療従事者)				
	医師·歯科医師	7.8 日	9.3 日	9.7 日	12.1 日
(内訳)	助産師·看護師	13.6 日	13.8 日	13.8 日	11.8 日
	医療技術員 (※)	10.2 日	11.4 日	11.9 日	13.8 目
時間外勤	動務 年960時間超えの医師数	4人	5人	14 人	12 人
看護師特	寺定行為研修修了者数	5人	4人	2人	8人
	うち、当院職員修了者数	5人	3人	1人	6人

[※] 医療技術員···薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、 視能訓練士、臨床工学技士、歯科衛生士

【評価理由】

令和6年度からの医師の働き方改革開始に向け、医師労働時間短縮計画の策定やマニュアルの整備により手続きを完了した。目標値のうち有給休暇の年間取得日数は計画の水準を満たす実績、医師の平均時間外勤務時間数は計画を下回る結果となったが、本目標の困難度を考慮し、「a」と評価した。

	(評価理由)	評価
市評価		

第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

4 地域との連携

(1) 地域の医療機関との連携

地域の基幹病院として、持続可能な地域医療提供体制の確保に資するよう、必要							
機関等との機能分化や連携強化を図ること	こ応じて他	也の医療					
中期目標 また、地域医療支援病院として、地域の医療機関との適切な役割分担のもと、医	寮機能や 後	と割に応					
じて患者の紹介を受け、又は逆紹介を行うなど、地域の医療機関との連携を図ること。							
基本方針の一つである「地域医療の充実のための病診連携、病病連携、保健福祉		連携」及					
び地域医療構想の実現に向け、基幹病院として地域の医療機関への医師派遣など	連携に努め	り、切れ					
中期計画目のないサービスの提供を行います。							
また、高度急性期医療を必要とする患者の紹介と、病状が安定した患者の地域医	寮機関への)逆紹介					
を推進し、地域医療支援病院 としての役割を果たします。							
地域医療支援病院として地域の医療機関との連携を推進し、紹介・逆紹介の更な	る向上と、	イージ					
年度計画 ーイーツーネット*の活用や病診連携勉強会等の開催、オープンシステム (開放型病院	の利用の	足進等に					
より、診療所との顔が見える連携に取り組み、信頼関係の構築に努めます。							
困難度							
(評価理由)		評価					
連携実績の把握と連携する医療機関等への訪問、病診連携総会での情報交換や地法人	或医療連						
は大 自己評価 携パスの活用等により、診療所との連携強化や信頼関係の構築に努めた結果、目標	直である	Α					
紹介率*・逆紹介率*はいずれも目標値を上回っており、年度計画における所期の目標	をおお	$\overline{}$					
むね達成していると考え、「A」と評価した。							
業務実績、評価理由	重点	評価					
○地域の医療機関との連携推進							
【実績】		а					
・地域連携室に専従担当者を配置し、連携実績の統計を作成するほか、DPC公開データの							
利用・分析による地域医療の状況を把握や、連携先への訪問や協議・情報交換の場で直接	妾						
意見や要望を収集した。							
・目標値である紹介率*(達成率 104.4%)、逆紹介率(達成率 109.6%) はいずれも前年度と同水							
準で推移し、目標値を上回った。新規の受診はかかりつけ医からの紹介がほとんどであ							
り、症状が安定した際にはかかりつけ医へ逆紹介し、連携実績を地域連携室で一元的に把握することで、速やかな連携に努めた。							
ですることで、速でかな連携に劣めた。 ・病床や医療機器の共同利用、イージーイーツーネットなど、診療情報の施設間共有シス [・]	÷						
ムや連携安心カード、複数の地域医療連携パスの活用により、他施設・機関と様々な連携							
を行った。	79						
・開業医への訪問活動や、静岡市静岡医師会・清水医師会の会員病院等との交流により、「『	姑						
	(B)						
	担						
の見える病診連携」を推進した。 7月31日(月) 静岡市立静岡病院 病診連携総会 (ホテルグランヒルズ静岡)	須						
の見える病診連携」を推進した。	浜						
の見える病診連携」を推進した。 7月31日(月) 静岡市立静岡病院 病診連携総会 (ホテルグランヒルズ静岡)	須						
の見える病診連携」を推進した。 7月31日(月) 静岡市立静岡病院 病診連携総会 (ホテルグランヒルズ静岡) 51施設、計118人が参加し、病診連携の現状や静岡病院のトピッ	須						
の見える病診連携」を推進した。 7月31日(月) 静岡市立静岡病院 病診連携総会 (ホテルグランヒルズ静岡) 51施設、計118人が参加し、病診連携の現状や静岡病院のトピッ クス等について情報を共有した。							
の見える病診連携」を推進した。 7月31日(月) 静岡市立静岡病院 病診連携総会 (ホテルグランヒルズ静岡) 51施設、計118人が参加し、病診連携の現状や静岡病院のトピッ クス等について情報を共有した。 12月5日(火) 令和5年度地域連携勉強会 (西館12階講堂 参加人数39人)							
の見える病診連携」を推進した。 7月31日(月) 静岡市立静岡病院 病診連携総会 (ホテルグランヒルズ静岡) 51施設、計118人が参加し、病診連携の現状や静岡病院のトピッ クス等について情報を共有した。 12月5日(火) 令和5年度地域連携勉強会 (西館12階講堂 参加人数39人) 「血糖降下注射薬の特徴を知って看護に活かそう」							
の見える病診連携」を推進した。 7月31日(月) 静岡市立静岡病院 病診連携総会 (ホテルグランヒルズ静岡) 51施設、計118人が参加し、病診連携の現状や静岡病院のトピッ クス等について情報を共有した。 12月5日(火) 令和5年度地域連携勉強会 (西館12階講堂 参加人数39人) 「血糖降下注射薬の特徴を知って看護に活かそう」 講師:静岡病院 糖尿病看護認定看護師 今井 憲二							
の見える病診連携」を推進した。 7月31日(月) 静岡市立静岡病院 病診連携総会 (ホテルグランヒルズ静岡) 51 施設、計 118 人が参加し、病診連携の現状や静岡病院のトピックス等について情報を共有した。 12月5日(火) 令和5年度地域連携勉強会 (西館12階講堂 参加人数39人) 「血糖降下注射薬の特徴を知って看護に活かそう」 講師:静岡病院 糖尿病看護認定看護師 今井 憲二							
の見える病診連携」を推進した。 7月31日(月) 静岡市立静岡病院 病診連携総会 (ホテルグランヒルズ静岡) 51 施設、計 118 人が参加し、病診連携の現状や静岡病院のトピックス等について情報を共有した。 12月5日(火) 令和5年度地域連携勉強会 (西館12階講堂 参加人数39人) 「血糖降下注射薬の特徴を知って看護に活かそう」 講師:静岡病院 糖尿病看護認定看護師 今井 憲二 目標値 項目 令和2年度実績令和3年度実績令和4年度実績令和5年度目標令和5年度実績							
の見える病診連携」を推進した。 7月31日(月) 静岡市立静岡病院 病診連携総会 (ホテルグランヒルズ静岡) 51 施設、計 118 人が参加し、病診連携の現状や静岡病院のトピックス等について情報を共有した。 12月5日(火) 令和5年度地域連携勉強会 (西館12階講堂 参加人数39人) 「血糖降下注射薬の特徴を知って看護に活かそう」 講師:静岡病院 糖尿病看護認定看護師 今井 憲二 目標値 項目 令和2年度実績令和3年度実績令和4年度実績令和5年度目標令和5年度実績紹介率 86.4% 86.6% 90.6% 87.0% 90.8%							
の見える病診連携」を推進した。 7月31日(月) 静岡市立静岡病院 病診連携総会 (ホテルグランヒルズ静岡) 51 施設、計 118 人が参加し、病診連携の現状や静岡病院のトピックス等について情報を共有した。 12月5日(火) 令和5年度地域連携勉強会 (西館12階講堂 参加人数39人) 「血糖降下注射薬の特徴を知って看護に活かそう」 講師:静岡病院 糖尿病看護認定看護師 今井 憲二 目標値 項目 令和2年度実績令和3年度実績令和4年度実績令和5年度目標令和5年度実績紹介率 86.4% 86.6% 90.6% 87.0% 90.8% 逆紹介率 144.0% 140.0% 155.5% 140.0% 153.5% 参考値 項目 令和2年度実績令和3年度実績令和4年度実績令和5年度実績							
の見える病診連携」を推進した。 7月31日(月) 静岡市立静岡病院 病診連携総会 (ホテルグランヒルズ静岡) 51 施設、計 118 人が参加し、病診連携の現状や静岡病院のトピックス等について情報を共有した。 12月5日(火) 令和5年度地域連携勉強会 (西館12階講堂 参加人数39人) 「血糖降下注射薬の特徴を知って看護に活かそう」 講師:静岡病院 糖尿病看護認定看護師 今井 憲二 目標値 項目 令和2年度実績令和3年度実績令和4年度実績令和5年度目標令和5年度実績紹介率 86.4% 86.6% 90.6% 87.0% 90.8% 90.8% 逆紹介率 144.0% 140.0% 155.5% 140.0% 153.5% 参考値							

パスの活用	情の把握と連携する医療機関等への訪問、病診連携総会での情報交換や地域医療連携 目等により、診療所との連携強化や信頼関係の構築に努めた結果、目標値である紹介 ト率はいずれも目標値を上回っており、年度計画の水準を満たしていると考え、「a」	
	(評価理由)	評価
市評価		

第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

4 地域との連携

(2) 市や関係機関等との連携

中期目標	(2)	市や関係機関等との連携					
また、市その他の関係機関等と連携した手業の実施や限力を適じて、地域医療をイール部間で支えていくこと。 地域の基幹病院として医療、保健、福祉サービスの各分野における行政機関等との連携・協力体制を維持し、市の政策を実に推進します。 災害発生等非常時には関係機関と連携し、必要な医療活動を連済します。 また、教育機関等からの実習の受入れや物命核急士の育成により、地域の医療技術の向上と人材育度、保健、福祉サービスの各分野の行政機関等と連携し、高度・専門医療や核急医療など政策医療、保健、福祉サービスの各分野の行政機関等と連携し、高度・専門医療や核急医療など政策医療、保健、福祉サービスの各分野の行政機関等と連携し、高度・専門医療や核急医療など政策医療、保健、福祉サービスの各分野の行政機関等と連携し、高度・専門医療や核急医療など政策医療、保健、福祉サービスの名分野の行政機関等と連携し、高度・専門市が主催力をよよう全的医療機関としての役割を果たします。 田鑑度 「評価理由」 学生や液命を設立と、学生や医療従事者の育成に取り組んだ。また、静岡市が主催力を援助としての連携など、学生や医療従事者の育成に取り組んだ。また、静岡市が主機力をよび各教育機関の連携に努めてより、年度計画における所類の目標をおおれた地域していると考え、「A」と評価した。業務実績、評価理由 「市や関係機関等との連携指揮 「実績」・医学生の病院実習をイ人、保証医科大学の人、京都大学13人、同門医科大学8人なり受け入れた。北里大学や日本医科大学など新たな大学の受け入れも行い、医学生の育成に積極的に取り組んだ。・看護師学で診断を修了した当院職員と近隣病院職員で、年に3回歴の検討会を開催し、病医神間や治療が会などの検証を行った。 ・看護師や定行為研修を修了した当院職員と近隣病院職員で、年に3回歴の検討会を開催した新修正な動かた。看護師の育成に取り組んだ。静岡県看護協会・特定行為区分:栄養及び水分管理に係る薬剤投与限連を活動に取り組んだ。静岡市場下の育成に取り組んだ。静岡市場下の育成に取り組んだ。静岡市場下の育成に取り出入た。新聞市が実践を対象に月2回間催している「教会主とレクチャー」では、受講を希望する静岡市教会教育の受け入れた。また、静岡市が実際と対象を受け入れた。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	中期目標	主導など、市の医療政策のパートナーとしての役割を引き続き果たしていくこと。					
を維持し、市の政策を共に推進します。災害発生等非常時には関係機関と連携し、必要な医療活動 を迅速に実施します。 また、教育機関等からの実習の受入れや核命教急士の育成により、地域の医療技術の向上と人材育 成に貢献します。 医療、保健、福社サービスの各分野の行政機関等と連携し、高度・専門医療や核色医療など政策医 療の総統的かつ安定的な機械と、災害等非常時における迅速な医療活動の提供に努めます。 教育機関等からの実習を積極的に受け入れ、地域の医療技術の向上と医療機関への定着の契機と なるよう公的医療機関としての役割を果たします。 国難度 (評価理由) 学生や教育教急士など各教育機関からの実習受け入れや、看護師特定行為研修における実 する「市政州前講座」への協力や、能釜半島地震での静岡市危機管理総霊との情報共行など 有政機関との連携に努めており、年度計画における所期の目標をおおむれ達成していると考 え、「A」と評価した。 業務実績、評価理由 「本点 評価 (実績) ・医学生の削除実習を 47人(保地原料大学の人、京都大学19人、関原医科大学8人など 受け入れた。 北里大学や日本医科大学など新たな大学の受け入れも行い、医学生の育成に領極的に取り 組んだ。 ・看護師特定行為所修を修了した当院職員と近藤原設職員で、年に3回庭例除計会を開催 し、病態期除や実践内容をどの検証を行った。 ・看護師特定行為研修では、新たに静岡県立大学と静岡県看護協会の実地協力施設となり、 看護師物定行体のでなどの検証を行った。 ・看護師特定行為研修では、新たに静岡県立大学と静岡県看護協会の表地協力施設となり、 静岡県看護協会 特定行為区分: 創傷管理関連 ・核念活動の現場において、係病者に対し迅速かつ的確な教念教命処置を行う能力の向上を 図るため、静岡市消防局部が高減を課 排防学校教 総判所院実習 4人 特岡市消防局部が高減を譲 消防・発表・消し、対策を対した機造・引き渡しの測験を行った。また、1 前間市決しまなに ・ が発表により1人(5日間)の病院実習を受け入れた。また、2人の病院見学を受け入れた。 ・静岡市消防局部か高対路等課 消防・対し、地域の医療技術向上に努めた。 ・ 成野市が主催する「市政州的講座」に協力し、地域の医療技術向上に努めた。 ・ 1月1日に発作した企業を持ちによった前間市が実施する。 適体者置測線(8月2日にお)に参加し、防災無縁を使用した機造・引き渡しの訓練を行っ。 「おり、日本に対した験造・引き渡しの訓練を行っ	1 2231 1 124	ていくこと。					
年度計画 療の継続的かつ安定的な提供と、災害等非常時における迅速な医療活動の提供に努めます。 教育機関等からの実習を積極的に受け入れ、地域の医療技術の向上と医療機関への定着の契機となるよう公的医療機関としての役割を果たします。 (評価理由)	中期計画	を維持し、市の政策を共に推進します。災害発生等非常時には関係機関と連携し、 を迅速に実施します。 また、教育機関等からの実習の受入れや救命救急士の育成により、地域の医療技術	必要な医	医療活動			
(評価理由) 学生や教命教急士など各教育機関からの実習受け入れや、看護師特定行為研修における実地協力施設としての連携など、学生や医療従事者の育成に取り組んだ。また、静岡市が主催する「市政出前講座」への協力や、能登半島地震での静岡市危機管理総室との情報共有など行政機関との連携に努めており、年度計画における所期の目標をおおむね達成していると考え、「A」と評価した。 業務実績、評価理由 重点 評価 「主義」 ・医学生の病院実習を47人(終松医科大学20人、京都大学13人、関西医科大学8人など)受け入れた。北里大学や日本医科大学など新たな大学の受け入れも行い、医学生の育成に積極的に取り組んだ。 ・看護学生は年間で554人の実習を受け入れた。教養科目、専門基礎科目等の知識を基盤にカリキュラムに沿った実習を医療現場で行い、看護師舎定行為研修を修了した当院職員と近隣病院職員で、年に3回症例検討会を開催し、病態判断や実践内容などの検証を行った。 ・看護師寺定行為研修を修了した当院職員と近隣病院職員で、年に3回症例検討会を開催し、病態判断や実践内容などの検証を行った。 ・看護師寺定行為研修では、新たに静岡県立大学と静岡県看護協会の実地協力施設となり、看護師の育成に取り組んだ。 静岡県五茂等、特定行為区分:栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連感染に係る薬剤投与関連感染に係る薬剤投与関連を発活動の現場において、傷病者に対し迅速かつ的確な救急教命処置を行う能力の向上を図るため、静岡市消防局より14人の実習を受け入れた。 静岡市消防局替防部救急課 救命救急士の約業前病院実習 2人、再教育病院実習 8人静岡市消防局背防部救急課 救命救急士の裁業前病院実習 4人・外部議前により副修医を対象に月 2回開催している「救急、ニレクチャー」では、受講を希望する静岡市救急隊員の受け入れた新たに開始し、地域の医療技術向上に努めた。 ・発労支援事業所からの依頼により1人(5日間)の病院実習を受け入れた。また、2人の病院見学を受け入れた。市政出前講座」に協力し、市政運営と市民への情報提供に努めた。 ・静岡市が主催する「市政出前講座」に協力し、市政運営と市民への情報提供に努めた。 ・静岡市が主催する「市政出前講座」に協力し、市政運営と市民への情報提供に努めた。 ・静岡市が主催する「市政出前講座」に協力し、市政運営と市民への情報提供に努めた。 ・静岡市が主催する「市政出前講座」に協力し、市政運営と市民への情報提供に努めた。 ・静岡市が主催する「市政出前講座」に協力し、下政運営と市民への情報提供に努めた。 ・静岡市教主報告をと随時情報を共有し、支援活動を行った。また、第一部成功を施する遺体措置訓練(8月2日(株))に参加し、防災無線を使用した機送・引き渡しの訓練を行っ	年度計画	療の継続的かつ安定的な提供と、災害等非常時における迅速な医療活動の提供に努め 教育機関等からの実習を積極的に受け入れ、地域の医療技術の向上と医療機関へ	ます。				
学生や教命教急士など各教育機関からの実習受け入れや、看護師特定行為研修における実地協力施設としての連携など、学生や医療従事者の育成に取り組んだ。また、静岡市が主催する「市政出前講座」への協力や、能登半島地震での静岡市危機管理総室との情報共有など有政機関との連携に努めており、年度計画における所期の目標をおおむね達成していると考え、「A」と評価した。 業務実績、評価理由 重点 評価 と 「下や関係機関等との連携に努めており、年度計画における所期の目標をおおむね達成していると考え、「A」と評価した。 業務実績、評価理由 重点 評価 と 「大き程」との構院実習を47人(ほ松医科大学20人、京都大学13人、関西医科大学8人など)受け入れた。北里大学や日本医科大学など新たな大学の受け入れも行い、医学生の育成に積極的に取り組んだ。 ・看護学生は年間で554人の実習を受け入れた。教養科目、専門基礎科目等の知識を基盤にカリキュラムに沿った実習を医療現場で行い、看護師の育成に努めた。 ・看護師特定行為研修を修了した当院職員と近隣病院職員で、年に3回症例検討会を開催し、病態判断や実践内容などの検証を行った。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	困難度						
自己評価 する「市政出前講座」への協力や、能登半島地震での静岡市危機管理総室との情報共有など 行政機関との連携に努めており、年度計画における所期の目標をおおむれ違成していると考え、「A」と評価した。 業務実績、評価理由 重点 評価 ○ 市や関係機関等との連携推進 【実績】 ・医学生の病院実習を47人(浜松医科大学の人、京都大学13人、関西医科大学8人など)受け入れた。北里大学や日本医科大学など新たな大学の受け入れも行い、医学生の育成に積極的に取り組んだ。 ・看護学生は年間で554人の実習を受け入れた。教養科目、専門基礎科目等の知識を基盤にカリキュラムに沿った実習を医療現場で行い、看護師の育成に努めた。 ・看護師特定行為研修を修了した当院職員と近隣病院職員で、年に3回症例検討会を開催し、病態判断や実践内容などの検証を行った。 ・看護師特定行為研修では、新たに静岡県立大学と静岡県看護協会の実地協力施設となり、看護師の育成に取り組んだ。 静岡県立大学 特定行為区分:創傷管理関連 藤県全の実地協力施設となり、看護師の育成に取り組んだ。 静岡県看護協会 特定行為区分:栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 感染に係る薬剤投与関連 感染に係る薬剤投与関連 感染に係る薬剤投与関連 ・教急活動の現場において、傷病者に対し迅速かつ的確な救急救命処置を行う能力の向上を図るため、静岡市消防局等防部治防総務課 救命救急士の就業前病院実習2人、再教育病院実習8人静岡市消防局階防部治防総務課 消防学校教急科病院実習2人、再教育病院実習8人静岡市消防局消防部消防総務課 消防学校教急科病院実習2人、再教育病院実習8人静岡市市協大部署を受け入れた。また、2人の病院見学を受け入れた。 ・就労支援事業所からの依頼により1人(5日間)の病院実習を受け入れた。また、2人の病院見学を受け入れた。 ・就労支援事業所からの依頼により1人(5日間)の病院実習を受け入れた。また、2人の病院見学を受け入れた。また、2人の病院見学を受け入れた。また、2人の病院見学を受け入れた。また、4時間市が実施する遺体措置訓練(8月24日(水))に参加し、防災無線を使用した搬送・引き渡しの訓練を行った。また、静岡市が実施する遺体措置訓練(8月24日(水))に参加し、防災無線を使用した搬送・引き渡しの訓練を行った。また、静岡市が実施する遺体措置訓練(8月24日(水))に参加し、防災無線を使用した搬送・引き渡しの訓練を行った。また、静岡市が実施する遺体措置訓練(8月24日(水))に参加し、防災無線を使用した搬送・引き渡しの訓練を行っ			さける実	評価			
● 市や関係機関等との連携推進 【実績】 ・医学生の病院実習を 47 人 (張松医科大学 20 人、京都大学 13 人、関西医科大学 8 人など) 受け入れた。北里大学や日本医科大学など新たな大学の受け入れも行い、医学生の育成に積極的に取り組んだ。・看護学生は年間で 554 人の実習を受け入れた。教養科目、専門基礎科目等の知識を基盤にカリキュラムに沿った実習を医療現場で行い、看護師の育成に努めた。・看護師特定行為研修を修丁した当院職員と近隣病院職員で、年に3回症例検討会を開催し、病態判断や実践内容などの検証を行った。・看護師特定行為研修では、新たに静岡県立大学と静岡県看護協会の実地協力施設となり、看護師の育成に取り組んだ。静岡県看護協会・特定行為区分:創傷管理関連感染に係る薬剤投与関連を持つ、特別・おきに関係し、対象・表別・の向上を図るため、静岡市消防局計りが総務課 消防学校教急科病院実習 2 人、再教育病院実習 8 人静岡市消防局消防部対急課 独命教会士の就業前病院実習 4 人・外部講師により研修医を対象に月 2 回開催している「救急ミニレクチャー」では、受講を希望する静岡市後の診験と対応により1人(5 日間)の病院実習を受け入れた。また、2 人の病院学を受け入れた。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		する「市政出前講座」への協力や、能登半島地震での静岡市危機管理総室との情報共行政機関との連携に努めており、年度計画における所期の目標をおおむね達成してい	共有など	А			
 ・医学生の病院実習を 47 人 (浜松医科大学20人、京都大学13人、関西医科大学8人など) 受け入れた。北里大学や日本医科大学など新たな大学の受け入れも行い、医学生の育成に積極的に取り組んだ。 ・看護学生は年間で 554 人の実習を受け入れた。教養科目、専門基礎科目等の知識を基盤にカリキュラムに沿った実習を医療現場で行い、看護師の育成に努めた。 ・看護師特定行為研修を修了した当院職員と近隣病院職員で、年に3回症例検討会を開催し、病態判断や実践内容などの検証を行った。 ・看護師や育成に取り組んだ。静岡県立大学と静岡県看護協会の実地協力施設となり、看護師の育成に取り組んだ。静岡県五大学 特定行為区分: 創傷管理関連 整漁に係る薬剤投与関連 感染に係る薬剤投与関連 感染に係る薬剤投与関連 感染に係る薬剤投与関連 感染に係る薬剤投与関連 感染に係る薬剤投与関連 感染に係る薬剤投与関連 が急活動の現場において、傷病者に対し迅速かつ的確な救急救命処置を行う能力の向上を図るため、静岡市消防局より14人の実習を受け入れた。 静岡市消防局消防部消防総務課 消防学校救急科病院実習 2人、再教育病院実習 8人 静岡市消防局消防部消防総務課 消防学校救急科病院実習 4人 ・外部講師により研修医を対象に月2回開催している「救急ミニレクチャー」では、受講を希望する静岡市救急隊員の受け入れを新たに開始し、地域の医療技術向上に努めた。 ・就労支援事業所からの依頼により1人(5日間)の病院実習を受け入れた。また、2人の病院見学を受け入れた。 ・静岡市が主催する「市政出前講座」に協力し、市政運営と市民への情報提供に努めた。 ・1月1日に発生した能登半島地震では、当院の医療救護活動と静岡市の被災地対応について静岡市危機管理総室と随時情報を共有し、支援活動を行った。また、静岡市が実施する遺体措置訓練(8月24日(木))に参加し、防災無線を使用した搬送・引き渡しの訓練を行っ 			重点	評価			
・医学生の病院実習を 47 人 (浜松医科大学 20 人、京都大学 13 人、関西医科大学 8 人など) 受け入れた。 北里大学や日本医科大学など新たな大学の受け入れも行い、医学生の育成に積極的に取り組んだ。 ・看護学生は年間で 554 人の実習を受け入れた。教養科目、専門基礎科目等の知識を基盤にカリキュラムに沿った実習を医療現場で行い、看護師の育成に努めた。 ・看護師特定行為研修を修了した当院職員と近隣病院職員で、年に3回症例検討会を開催し、病態判断や実践内容などの検証を行った。 ・看護師特定行為研修では、新たに静岡県立大学と静岡県看護協会の実地協力施設となり、看護師の育成に取り組んだ。 静岡県立大学 特定行為区分: 創傷管理関連 静岡県看護協会 特定行為区分: 創傷管理関連 藤梁に係る薬剤投与関連 感染に係る薬剤投与関連 感染に係る薬剤投与関連 のまたが、静岡市消防局より 14 人の実習を受け入れた。 静岡市消防局当り 14 人の実習を受け入れた。 静岡市消防局が部教急課 救命救急士の就業前病院実習 2 人、再教育病院実習 8 人静岡市消防局消防部消防総務課 消防学校救急科病院実習 4 人・外部講師により研修医を対象に月2回開催している「救急ミニレクチャー」では、受講を希望する静岡市救急隊員の受け入れを新たに開始し、地域の医療技術向上に努めた。 ・ 就労支援事業所からの依頼により 1 人 (5 日間) の病院実習を受け入れた。また、2 人の病院見学を受け入れた。 ・ 計画市が主催する「市政出前講座」に協力し、市政運営と市民への情報提供に努めた。 ・ 1 月 1 日に発生した能登半島地震では、当院の医療救護活動と静岡市の被災地対応について静岡市危機管理総室と随時情報を共有し、支援活動を行った。また、静岡市が実施する遺体措置訓練 (8月24日(水)) に参加し、防災無線を使用した搬送・引き渡しの訓練を行っ		系機関等との連携推進		а			
組んだ。 ・看護学生は年間で554人の実習を受け入れた。教養科目、専門基礎科目等の知識を基盤にカリキュラムに沿った実習を医療現場で行い、看護師の育成に努めた。 ・看護師特定行為研修を修了した当院職員と近隣病院職員で、年に3回症例検討会を開催し、病態判断や実践内容などの検証を行った。 ・看護師特定行為研修では、新たに静岡県立大学と静岡県看護協会の実地協力施設となり、看護師の育成に取り組んだ。 静岡県立大学 特定行為区分:創傷管理関連 静岡県看護協会 特定行為区分:創傷管理関連 ・救急活動の現場において、傷病者に対し迅速かつ的確な救急救命処置を行う能力の向上を図るため、静岡市消防局より14人の実習を受け入れた。 静岡市消防局警防部救急課 救命救急士の就業前病院実習2人、再教育病院実習8人静岡市消防局階防部救急課 救命救急士の就業前病院実習2人、再教育病院実習8人静岡市消防局階防部救急課 救命救急士の就業前病院実習4人・外部講師により研修医を対象に月2回開催している「救急ミニレクチャー」では、受講を希望する静岡市救急隊員の受け入れを新たに開始し、地域の医療技術向上に努めた。・就労支援事業所からの依頼により1人(5日間)の病院実習を受け入れた。また、2人の病院見学を受け入れた。 ・ 静岡市が主催する「市政出前講座」に協力し、市政運営と市民への情報提供に努めた。・ 1月1日に発生した能登半島地震では、当院の医療救護活動と静岡市の被災地対応について静岡市危機管理総室と随時情報を共有し、支援活動を行った。また、静岡市が実施する遺体措置訓練(8月24日(木))に参加し、防災無線を使用した搬送・引き渡しの訓練を行っ		生の病院実習を47人(浜松医科大学20人、京都大学13人、関西医科大学8人など)受け入れた。		<u> </u>			
・看護学生は年間で554人の実習を受け入れた。教養科目、専門基礎科目等の知識を基盤にカリキュラムに沿った実習を医療現場で行い、看護師の育成に努めた。 ・看護師特定行為研修を修了した当院職員と近隣病院職員で、年に3回症例検討会を開催し、病態判断や実践内容などの検証を行った。 ・看護師特定行為研修では、新たに静岡県立大学と静岡県看護協会の実地協力施設となり、看護師の育成に取り組んだ。 静岡県立大学 特定行為区分:創傷管理関連 静岡県看護協会 特定行為区分:常養及び水分管理に係る薬剤投与関連 感染に係る薬剤投与関連 ・救急活動の現場において、傷病者に対し迅速かつ的確な救急救命処置を行う能力の向上を図るため、静岡市消防局より14人の実習を受け入れた。 静岡市消防局警防部救急課 救命救急士の就業前病院実習2人、再教育病院実習8人静岡市消防局消防部消防総務課 消防学校救急科病院実習4人 ・外部講師により研修医を対象に月2回開催している「救急ミニレクチャー」では、受講を希望する静岡市救急隊員の受け入れを新たに開始し、地域の医療技術向上に努めた。 ・就労支援事業所からの依頼により1人(5日間)の病院実習を受け入れた。また、2人の病院見学を受け入れた。 ・静岡市が主催する「市政出前講座」に協力し、市政運営と市民への情報提供に努めた。 ・1月1日に発生した能登半島地震では、当院の医療救護活動と静岡市の被災地対応について静岡市危機管理総室と随時情報を共有し、支援活動を行った。また、静岡市が実施する遺体措置訓練(8月24日(木))に参加し、防災無線を使用した搬送・引き渡しの訓練を行っ							
カリキュラムに沿った実習を医療現場で行い、看護師の育成に努めた。 ・看護師特定行為研修を修了した当院職員と近隣病院職員で、年に3回症例検討会を開催し、病態判断や実践内容などの検証を行った。 ・看護師特定行為研修では、新たに静岡県立大学と静岡県看護協会の実地協力施設となり、看護師の育成に取り組んだ。 静岡県立大学 特定行為区分:創傷管理関連 静岡県看護協会 特定行為区分:創傷管理関連 ・救急活動の現場において、傷病者に対し迅速かつ的確な救急救命処置を行う能力の向上を図るため、静岡市消防局等り14人の実習を受け入れた。 静岡市消防局警防部救急課 救命救急士の就業前病院実習2人、再教育病院実習8人静岡市消防局消防部消防総務課 消防学校救急科病院実習4人 ・外部講師により研修医を対象に月2回開催している「救急ミニレクチャー」では、受講を希望する静岡市救急隊員の受け入れを新たに開始し、地域の医療技術向上に努めた。 ・就労支援事業所からの依頼により1人(5日間)の病院実習を受け入れた。また、2人の病院見学を受け入れた。 ・静岡市が主催する「市政出前講座」に協力し、市政運営と市民への情報提供に努めた。 ・1月1日に発生した能登半島地震では、当院の医療救護活動と静岡市の被災地対応について静岡市危機管理総室と随時情報を共有し、支援活動を行った。また、静岡市が実施する遺体措置訓練(8月24日(木))に参加し、防災無線を使用した搬送・引き渡しの訓練を行っ		·					
し、病態判断や実践内容などの検証を行った。 - 看護師特定行為研修では、新たに静岡県立大学と静岡県看護協会の実地協力施設となり、看護師の育成に取り組んだ。 静岡県立大学 特定行為区分:創傷管理関連 静岡県看護協会 特定行為区分:栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 感染に係る薬剤投与関連 ・救急活動の現場において、傷病者に対し迅速かつ的確な救急救命処置を行う能力の向上を 図るため、静岡市消防局より14人の実習を受け入れた。 静岡市消防局警防部救急課 救命救急士の就業前病院実習2人、再教育病院実習8人 静岡市消防局消防部消防総務課 消防学校救急科病院実習4人 - 外部講師により研修医を対象に月2回開催している「救急ミニレクチャー」では、受講を 希望する静岡市救急隊員の受け入れを新たに開始し、地域の医療技術向上に努めた。 - 就労支援事業所からの依頼により1人(5日間)の病院実習を受け入れた。また、2人の病院見学を受け入れた。 - 静岡市が主催する「市政出前講座」に協力し、市政運営と市民への情報提供に努めた。 - 1月1日に発生した能登半島地震では、当院の医療救護活動と静岡市の被災地対応について静岡市危機管理総室と随時情報を共有し、支援活動を行った。また、静岡市が実施する 遺体措置訓練(8月24日(木))に参加し、防災無線を使用した搬送・引き渡しの訓練を行っ							
 ・看護師特定行為研修では、新たに静岡県立大学と静岡県看護協会の実地協力施設となり、看護師の育成に取り組んだ。 静岡県立大学 特定行為区分:創傷管理関連 静岡県看護協会 特定行為区分:創傷管理関連 感染に係る薬剤投与関連 ・救急活動の現場において、傷病者に対し迅速かつ的確な救急救命処置を行う能力の向上を図るため、静岡市消防局より14人の実習を受け入れた。 静岡市消防局警防部救急課 救命救急士の就業前病院実習2人、再教育病院実習8人静岡市消防局消防部消防総務課 消防学校救急科病院実習4人 ・外部講師により研修医を対象に月2回開催している「救急ミニレクチャー」では、受講を希望する静岡市救急隊員の受け入れを新たに開始し、地域の医療技術向上に努めた。 ・就労支援事業所からの依頼により1人(5日間)の病院実習を受け入れた。また、2人の病院見学を受け入れた。 ・静岡市が主催する「市政出前講座」に協力し、市政運営と市民への情報提供に努めた。 ・1月1日に発生した能登半島地震では、当院の医療救護活動と静岡市の被災地対応について静岡市危機管理総室と随時情報を共有し、支援活動を行った。また、静岡市が実施する遺体措置訓練(8月24日(木))に参加し、防災無線を使用した搬送・引き渡しの訓練を行っ 							
看護師の育成に取り組んだ。 静岡県立大学 特定行為区分:創傷管理関連 静岡県看護協会 特定行為区分:栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 感染に係る薬剤投与関連 ・救急活動の現場において、傷病者に対し迅速かつ的確な救急救命処置を行う能力の向上を 図るため、静岡市消防局より14人の実習を受け入れた。 静岡市消防局警防部救急課 救命救急士の就業前病院実習2人、再教育病院実習8人 静岡市消防局消防部消防総務課 消防学校救急科病院実習4人 ・外部講師により研修医を対象に月2回開催している「救急ミニレクチャー」では、受講を 希望する静岡市救急隊員の受け入れを新たに開始し、地域の医療技術向上に努めた。 ・就労支援事業所からの依頼により1人(5日間)の病院実習を受け入れた。また、2人の病 院見学を受け入れた。 ・静岡市が主催する「市政出前講座」に協力し、市政運営と市民への情報提供に努めた。 ・1月1日に発生した能登半島地震では、当院の医療救護活動と静岡市の被災地対応につい て静岡市危機管理総室と随時情報を共有し、支援活動を行った。また、静岡市が実施する 遺体措置訓練(8月24日(木))に参加し、防災無線を使用した搬送・引き渡しの訓練を行っ	•	···					
静岡県看護協会 特定行為区分:栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 感染に係る薬剤投与関連 ・救急活動の現場において、傷病者に対し迅速かつ的確な救急救命処置を行う能力の向上を 図るため、静岡市消防局より14人の実習を受け入れた。 静岡市消防局警防部救急課 救命救急士の就業前病院実習2人、再教育病院実習8人 静岡市消防局消防部消防総務課 消防学校救急科病院実習4人 ・外部講師により研修医を対象に月2回開催している「救急ミニレクチャー」では、受講を 希望する静岡市救急隊員の受け入れを新たに開始し、地域の医療技術向上に努めた。 ・就労支援事業所からの依頼により1人(5日間)の病院実習を受け入れた。また、2人の病 院見学を受け入れた。 ・静岡市が主催する「市政出前講座」に協力し、市政運営と市民への情報提供に努めた。 ・1月1日に発生した能登半島地震では、当院の医療救護活動と静岡市の被災地対応につい て静岡市危機管理総室と随時情報を共有し、支援活動を行った。また、静岡市が実施する 遺体措置訓練(8月24日(木))に参加し、防災無線を使用した搬送・引き渡しの訓練を行っ							
感染に係る薬剤投与関連 ・救急活動の現場において、傷病者に対し迅速かつ的確な救急救命処置を行う能力の向上を図るため、静岡市消防局より14人の実習を受け入れた。 静岡市消防局警防部救急課 救命救急士の就業前病院実習2人、再教育病院実習8人静岡市消防局消防部消防総務課 消防学校救急科病院実習4人 ・外部講師により研修医を対象に月2回開催している「救急ミニレクチャー」では、受講を希望する静岡市救急隊員の受け入れを新たに開始し、地域の医療技術向上に努めた。 ・就労支援事業所からの依頼により1人(5日間)の病院実習を受け入れた。また、2人の病院見学を受け入れた。 ・静岡市が主催する「市政出前講座」に協力し、市政運営と市民への情報提供に努めた。 ・1月1日に発生した能登半島地震では、当院の医療救護活動と静岡市の被災地対応について静岡市危機管理総室と随時情報を共有し、支援活動を行った。また、静岡市が実施する遺体措置訓練(8月24日(木))に参加し、防災無線を使用した搬送・引き渡しの訓練を行っ	,,,,						
 ・救急活動の現場において、傷病者に対し迅速かつ的確な救急救命処置を行う能力の向上を図るため、静岡市消防局より14人の実習を受け入れた。 静岡市消防局警防部救急課 救命救急士の就業前病院実習2人、再教育病院実習8人静岡市消防局消防部消防総務課 消防学校救急科病院実習4人 ・外部講師により研修医を対象に月2回開催している「救急ミニレクチャー」では、受講を希望する静岡市救急隊員の受け入れを新たに開始し、地域の医療技術向上に努めた。 ・就労支援事業所からの依頼により1人(5日間)の病院実習を受け入れた。また、2人の病院見学を受け入れた。 ・静岡市が主催する「市政出前講座」に協力し、市政運営と市民への情報提供に努めた。 ・1月1日に発生した能登半島地震では、当院の医療救護活動と静岡市の被災地対応について静岡市危機管理総室と随時情報を共有し、支援活動を行った。また、静岡市が実施する遺体措置訓練(8月24日(木))に参加し、防災無線を使用した搬送・引き渡しの訓練を行っ 	静						
図るため、静岡市消防局より14人の実習を受け入れた。 静岡市消防局警防部救急課 救命救急士の就業前病院実習2人、再教育病院実習8人 静岡市消防局消防部消防総務課 消防学校救急科病院実習4人 ・外部講師により研修医を対象に月2回開催している「救急ミニレクチャー」では、受講を 希望する静岡市救急隊員の受け入れを新たに開始し、地域の医療技術向上に努めた。 ・就労支援事業所からの依頼により1人(5日間)の病院実習を受け入れた。また、2人の病 院見学を受け入れた。 ・静岡市が主催する「市政出前講座」に協力し、市政運営と市民への情報提供に努めた。 ・1月1日に発生した能登半島地震では、当院の医療救護活動と静岡市の被災地対応につい て静岡市危機管理総室と随時情報を共有し、支援活動を行った。また、静岡市が実施する 遺体措置訓練(8月24日(木))に参加し、防災無線を使用した搬送・引き渡しの訓練を行っ	教急》						
静岡市消防局消防部消防総務課 消防学校救急科病院実習4人 ・外部講師により研修医を対象に月2回開催している「救急ミニレクチャー」では、受講を希望する静岡市救急隊員の受け入れを新たに開始し、地域の医療技術向上に努めた。 ・就労支援事業所からの依頼により1人(5日間)の病院実習を受け入れた。また、2人の病院見学を受け入れた。 ・静岡市が主催する「市政出前講座」に協力し、市政運営と市民への情報提供に努めた。 ・1月1日に発生した能登半島地震では、当院の医療救護活動と静岡市の被災地対応について静岡市危機管理総室と随時情報を共有し、支援活動を行った。また、静岡市が実施する遺体措置訓練(8月24日(木))に参加し、防災無線を使用した搬送・引き渡しの訓練を行っ							
希望する静岡市救急隊員の受け入れを新たに開始し、地域の医療技術向上に努めた。 ・就労支援事業所からの依頼により1人(5日間)の病院実習を受け入れた。また、2人の病院見学を受け入れた。 ・静岡市が主催する「市政出前講座」に協力し、市政運営と市民への情報提供に努めた。 ・1月1日に発生した能登半島地震では、当院の医療救護活動と静岡市の被災地対応について静岡市危機管理総室と随時情報を共有し、支援活動を行った。また、静岡市が実施する遺体措置訓練(8月24日(木))に参加し、防災無線を使用した搬送・引き渡しの訓練を行っ							
 ・就労支援事業所からの依頼により1人(5日間)の病院実習を受け入れた。また、2人の病院見学を受け入れた。 ・静岡市が主催する「市政出前講座」に協力し、市政運営と市民への情報提供に努めた。 ・1月1日に発生した能登半島地震では、当院の医療救護活動と静岡市の被災地対応について静岡市危機管理総室と随時情報を共有し、支援活動を行った。また、静岡市が実施する遺体措置訓練(8月24日(木))に参加し、防災無線を使用した搬送・引き渡しの訓練を行っ 							
・静岡市が主催する「市政出前講座」に協力し、市政運営と市民への情報提供に努めた。 ・1月1日に発生した能登半島地震では、当院の医療救護活動と静岡市の被災地対応につい て静岡市危機管理総室と随時情報を共有し、支援活動を行った。また、静岡市が実施する 遺体措置訓練(8月24日(木))に参加し、防災無線を使用した搬送・引き渡しの訓練を行っ	・就労	支援事業所からの依頼により1人(5日間)の病院実習を受け入れた。また、2人の病					
て静岡市危機管理総室と随時情報を共有し、支援活動を行った。また、静岡市が実施する 遺体措置訓練(8月24日(木))に参加し、防災無線を使用した搬送・引き渡しの訓練を行っ		•					
7Co	て静原 遺体打	岡市危機管理総室と随時情報を共有し、支援活動を行った。また、静岡市が実施する					
	た。						

・静岡マラソン実行委員会 (静岡市、静岡陸上競技協会、静岡商工会議所等) が主催する静岡マラソン 2 0 2 4 (3月10日(日)) へ救護活動に従事するため、医師 4 人、看護師 11 人を派遣し運営に協力した。

参考値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
看護実習受入実人数 (看護学校)	147 人	260 人	482 人	554 人
救急救命士実習受入人数 (消防局)	21 人	12 人	2人	14 人
障がい者職場実習受入人数 (支援学校等)	0人	1人	9人	1人

【評価理由】

学生や救命救急士など各教育機関からの実習受け入れや、看護師特定行為研修における実地協力施設としての連携など、学生や医療従事者の育成に取り組んだ。また、静岡市が主催する「市政出前講座」への協力や、能登半島地震での静岡市危機管理総室との情報共有など行政機関との連携に努めており、年度計画の水準を満たしていると考え、「a」と評価した。

	(評価理由)	評価
市評価		

第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

4 地域との連携

(3) 市民への情報提供

	市民への情報提供							
	病院の診療・治療実績、疾病、経営状況に関する情報等、市民に有用な情報を迅速な	いつ正確	全に発信					
中期目標	すること。また、医療に関する知識の普及のため、市内の教育機関等と連携し、医療							
	推進していくこと。							
	ホームページ等の活用により、病院の機能や診療実績等の情報提供を行うとともに、	院内外	トでの辞					
中期計画	演会の開催等により市民に向けた情報発信を継続します。							
1 ///1111111111111111111111111111111111	学生を対象とした医療教育を引き続き行い、自らの健康を適切に管理し、改善してレ	へく資質	重や能力					
	の育成に貢献します。							
	病院ホームページや広報誌等を活用し、病院の機能や診療実績等の情報発信を積極	仮的に名	fv、 症					
	院と医療に関する知識の普及啓発に取り組みます。		• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •					
年度計画	公開講座や学生を対象とした「がん教育」等の実施により、医療に関するわかりや	5- 1-1 1 \	も却 のせ					
		C 9 V 11	7 学区 ♥ ノカス					
	供に努め、市民・患者の健康増進に貢献します。							
困難度								
四天此人文								
	(評価理由)		評価					
	「静岡市民からだの学校」や「市民公開講座」など講演会の開催や、広報誌・病院:	年報の	н г град					
法人	発行等により、患者や市民、関連施設等に向けた啓発活動に取り組んだ。目標値であ							
自己評価			В					
	ホームページ訪問数は前年度実績を上回ったが達成率は89.0%であり、年度計画にお	ける所						
	期の目標を達成する成果が得られていないと考え、「B」と評価した。	1						
	業務実績、評価理由	重点	評価					
○市民への)情報提供と広報活動の充実							
【実績】			b					
	担当である総務課総務・企画係と広報委員会を中心に、定期的な広報誌・病院年報の							
	つほか、講演会の開催、ホームページからの情報発信等により患者や市民、関連施設							
• •	可けた啓発活動に取り組んだ。							
	トームページは、新設した「おなかのヘルニアセンター」「肩・肘・手外科センター」							
の紹介	トや各診療科ページの見直し、イベントの開催情報に加えメディア取材やDMAT出							
動等(D院内トピックスの情報発信を行い、訪問数は 471,482 と令和4年度実績を約 18,400							
上回~	ったが、目標値を下回る結果 (達成率89.0%) であった。							
・がんり	こ対する正しい知識、がん患者への理解及び命の大切さに対する認識を深めるため、							
	とを対象としたがん教育の講義を9校、1,118人を対象に実施した。							
	4 回静岡市民からだの学校」や市民公開講座の開催、市政出前講座への協力などによ							
	思者・家族や市民を対象に、医療に関する教育・啓発活動を行った。 							
	4回静岡市民からだの学校>							
中心	心市街地版							
10	月 22 日(日) 13:30~15:30 会場・しずぎんホールユーフォニア							
	テーマ:「肩・肘・手外科センター 上肢の障害とスポーツ傷害」(参加人数:211人)							
抽井	成版 in 井川							
	月 15 日 (水) 14:00~15:45 会場・井川ビジターセンター (参加人数:12人)							
	成版 in 梅ヶ島							
11	月 17 日 (金) 19:00~20:30 会場・梅ヶ島生涯学習交流館 (参加人数:23人)							
	成版 in 清沢							
		1						
	月 28 日 (火) 14:00~15:30 会場・清沢生涯学習交流館 (参加人数:37人)							
11	月 28 日(火) 14:00~15:30 会場・清沢生涯学習交流館 (参加人数:37人) R公開講座>							
11 <市B	尼公開講座 >							
11 <市B	民公開講座> 目 17 日(土) 14:00~15:30 会場・静岡病院西館 12階 講堂							
11 <市B	尼公開講座 >							
11 <市B	民公開講座> 目 17 日(土) 14:00~15:30 会場・静岡病院西館 12階 講堂							
11 <市B	民公開講座> 目 17 日(土) 14:00~15:30 会場・静岡病院西館 12階 講堂							
11 <市B	民公開講座> 目 17 日(土) 14:00~15:30 会場・静岡病院西館 12階 講堂							
11 <市B	民公開講座> 目 17 日(土) 14:00~15:30 会場・静岡病院西館 12階 講堂							

<市政出前講座 (主な実績) >

5月19日(金) 10:30~12:00 会場・用宗公民館 (参加人数:57人)

テーマ:「よい睡眠でからだもこころも健康に」

9月28日 (水) 9:50~11:30 会場・ハートピア清水 (参加人数:115人)

テーマ:「よい睡眠でからだもこころも健康に」

11月7日 (火) 9:00~11:00 会場・社会福祉法人 葵寮 (参加人数:108人)

テーマ:「新型コロナの感染対策について」

目標値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	令和5年度実績
病院ホームページ訪問数 (※)	600, 458	523, 057	453, 099	530, 000	471, 482

※ 訪問数…セッション数。ホームページへのアクセスから離脱までを 「1」 とする指標。

参考値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
市政出前講座 受講延べ人数	157 人	256 人	1,036人	730 人
中学生対象 「がん教育」活動実績	8校 8講義・8日間	7校 12講義・8日間		9校 14講義・9日間

【評価理由】

「静岡市民からだの学校」や「市民公開講座」など講演会の開催や、広報誌・病院年報の発行等により、患者や市民、関連施設等に向けた啓発活動に取り組んだ。目標値である病院ホームページ訪問数は前年度実績を上回ったが達成率は89.0%であり、年度計画の水準を満たす成果が得られていないと考え、「b」と評価した。

	(評価理由)	評価
市評価		

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 効率的な業務運営等

1 幼	率的な業務連宮等					
	医療環境の変化に柔軟かつ的確に対応し、自律性、機動性に優れた効率的な業務運営	対体制∂	の構築を			
	図ること。また、法人内の人的資源が効率的かつ有効に機能するよう各部門の自由層	園達な こ	コミュニ			
中期目標	ケーションにより、組織力を十二分に発揮し、業務運営体制の強化を図ること。					
	職員全員が業務運営に関する意識を高め、組織として業務改善に継続的に取り組む、	こと。言	また、部			
	別の目標による管理や外部評価の活用により業務運営の改善を図ること。					
	病院基本理念の達成及び中期計画・年度計画の実行による中期目標達成のため、地方独立行政法人					
	制度の特長を生かした予算や人事の弾力的な運用、重要業績評価指標(KPI)による進捗管理によ					
中期計画	り、迅速な意思決定と組織的な業務運営を行います。					
1 //481	病院機能評価や卒後臨床研修評価(JCEP)等の外部評価を積極的に活用し、医療の質の向上と安全					
	の確保、医療環境の変化に応じた継続的な質改善活動に取り組みます。	₹ · > 1.1⊐				
	病院基本理念の達成と地域から求められる医療を継続して提供するため、組織的な	* 業務	重営を行			
	います。重要業績評価指標(KPI)による進捗管理や経営分析、各診療科とのディスス		_,			
年度計画	より、職員一人ひとりの経営に対する意識向上に努めます。	• / • -	10 410			
ГДПД	令和5年度の病院機能評価や卒後臨床研修評価(JCEP)など、外部評価の受審により、	继結的	なな業務			
	改善活動を行い、患者が安心して医療を享受でき職員が働きやすい病院づくりに取り					
	以音曲動を行く、心音が気むしく区原を手文でで概算が動きくすく内的につく方に扱うが	ш/ Д	7 0			
困難度						
			評価			
	新たなセンターの開設やHCU (ハイケアユニット) の増床など、安定した医療体制の	確保と	нтіш			
	整備に組織的に取り組んだほか、新入院患者数や平均在院日数等を重要業績評価指標					
法人	として設定した進捗管理の実施等により、職員の経営に対する意識を高めた結果、平					
自己評価	日数の短縮伴い1日平均入院患者数は目標をやや下回ったものの、入院単価・新入院					
	は増加した。病院機能評価、卒後臨床研修機能評価(JCEP)の受審では、病院全体					
	り組みにより共に更新が認定されており、年度計画における所期の目標をおおむね達					
		及して				
	いると考え、「A」と評価した。 業務実績、評価理由	重点	評価			
	素務美模、評価連由 な業務運営と改善活動	里川	計刊皿			
し	は未物理者と以音伯剣	0	а			
	カ上東、野蛮に関すて無関な検討する奴党体長会業を伝える。 「中国で関するとはて無関する。		а			
	や人事、財務に関する課題を検討する経営統括会議を年46回、病院運営に係る課題を					
	する運営会議を年24回開催し、速やかな課題解決に取り組んだ。設定した重要業績評					
.,	票(KPI)による進捗管理や分析・検討を月次で行い、各診療科との院長ヒアリングで					
	療科別・疾患別の原価計算資料によりディスカッションを行った。					
里 里 里 里 里 里 里 里 里 里 里 里 里 里 里 里 里 里 里	要業績評価指標(KPI) 新入院患者数、救急外来入院患者数、1日平均入院患者数					
-label s	平均在院日数*、入院単価、入院収益					
	軍営に必要な委員会や部会を設置し、委員会要綱に則り活動を行った。各種委員会等					
	動は経営統括会議・運営会議に報告し、診療部会議や病院部門連絡会、院内ネットワ					
	を通して各職員へ周知した。					
	ない救急」体制における重症患者受入体制拡充の必要性や、主軸である急性期医療・					
高度為	急性期医療等をより一層推進するため病床を再編。HCU(ハイケアユニット)を東8病					
棟へ賃	集約し20床から30床へ増床した。また、秘書機能強化のため総務課内に「秘書係」					
を新記	没したほか、「おなかのヘルニアセンター」「肩・肘・手外科センター」を開設するな					
ど、旨	当院の安定した医療体制と運営の確保や各部門・部署の位置づけ、職員の指示命令系					
統等の	り整備を行った。					
 平均7 	Yに日数は、クリニカルパスの増加や早期退院に向けた取り組み等により 10.6日 (達成					
率 103.	8%) と短縮し、入院単価は96,807円 (前年度比+5,679円) に増加した。平均在院日数の短					
縮に。	より1日平均入院患者数は407人(達成率96.9%)に減少したが、新入院患者数は12,795					
	阵度比+685人)と増加し、高度な急性期医療の提供を推進した。					
	機能評価受審に際し、各種マニュアルと業務手順の見直し、模擬審査や院内ラウンド					
	成化計画支替に戻し、台種マーゴケルと業務予順の元直し、模擬番重や成内プリントでい業務の質改善に取り組んだ。訪問審査後の中間報告において指摘された1項目に					
	て見直しを行い、補充的な審査により改善が認められ更新が認定された。					
٠)٧١	、元旦しで11♥、↑Mプロツよ番1Nにより以音が祕のり4U史材が祕足された。					

<受審概要>

訪問審査日 10月19日(木)、20日(金)

審查内容

サーベイヤー (外部評価調査者) 7名による書類確認、面談、部署訪問による審査。患者中心の医療の推進、良質な医療の実践1、良質な医療の実践2、理念達成に向けた組織運営の4領域88項目について審査。

審査結果

S評価 (秀でている) 1項目

A評価 (適切に行われている) 76項目

B評価 (一定の水準に達している) 11 項目

C評価 (一定の水準に達していない) なし

中間報告では、リネン類の保管場所について指摘を受けたが、保管場所の変更と運用の見直しを行い、訪問審査後の補充的な審査で改善が認められ5年間の更新が認定された。

・卒後臨床研修機能評価 (JCEP) 受審に際し、研修プログラムやマニュアル類の見直し、 模擬審査や院内ラウンド等を行い臨床研修体制の改善に取り組んだ。審査の結果、更新が 認定された。

<受審概要>

訪問審査日 2月15日(木)

審查内容

サーベイヤー (外部評価調査者) 3名による研修医等の面談、書類確認、部署訪問による審査。臨床研修病院としての役割、研修環境や指導体制、研修修了後の進路など8領域27項目について審査。

審査結果

適 切 14項目

要検討 9項目

要改善 4項目

審査の結果、「要改善」が 20%未満 (4項目/27 項目=14.8%) となり、4年間の更新が認定された。

目標値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	令和5年度実績
1日平均入院患者数	393 人	399 人	419 人	420 人	407 人
平均在院日数	11.7 日	11.4 日	11.6 日	11.0 日	10.6 目

参考値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
入院単価	84, 318 円	90,601円	91, 128 円	96,807円
新入院患者数	11,279 人	11,787 人	12,110 人	12,795 人

【評価理由】

新たなセンターの開設やHCU (ハイケアユニット) の増床など、安定した医療体制の確保と整備に組織的に取り組んだほか、新入院患者数や平均在院日数等を重要業績評価指標 (KPI) として設定した進捗管理の実施等により、職員の経営に対する意識を高めた結果、平均在院日数の短縮伴い1日平均入院患者数は目標をやや下回ったものの、入院単価・新入院患者数は増加した。病院機能評価、卒後臨床研修機能評価 (JCEP) の受審では、病院全体での取り組みにより共に更新が認定されており、年度計画の水準を満たしていると考え、「a」と評価した。

	(評価理由)	評価
市評価		

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

2 教育研修の充実

中期目標								
	職員のスキルア	ップを図るた	め、体系的な	部門別研修、	テーマ別研修	修等を充実させ	ること。	
	幅広い教育機会	の提供と必要	要な教育が継続	売できるよう、	、Web を利用	した研修やe-	ラーニン	ノグの
	用を推進します。							
中期計画	職員が専門性を生かし、安全でより高度な医療が提供できるよう、シミュレーションラボ室						室の効果	
	的な運用や実習プログラムの充実等により医療水準の向上を図ります。また、臨床研修指導							享医の
	成による医師の教	育基盤強化に	努めます。					
	職員ひとりひと	りが高い目標	票意識や倫理権	観を持ち、高	度で専門的な	:知識を有する[医療人と	として
	長できるよう、集	合研修や e - う	ラーニングの	舌用等により	幅広い教育機	会の確保に努め	ます。	
年度計画	シミュレーショ	ンラボ*室にお	おけるシミュ	レーターの更	新や新規購入	、実習プログ	ラムの見	見直し
	の環境整備による	医療技術の向	可上と、指導[医研修会への	参加による勢	育基盤の更なる	る強化に	こ取り
	みます。							
	Ī							
困難度								
	(評価理由)							評価
	新規採用職員を	対象の多職種	合同研修や、	全職員を対象	象とした教育	・研修を開催。	シミュ	H 1
法人	レーターの購入や							
自己評価	る実習プログラム							
- -	の整備により、年				_			
	評価した。	ДП П (- 1, - 1,	, 3 //////) () () () () () ()	\$ 2 3,20	2, 0	
	F1 11-4 - 1 - 0		美績、評価理				重点	評価
	をの充実と環境整備		// FI II	<u>, , </u>				H 1 1/2
【実績】		•						s
	採用職員を対象とし	た多職種合同	司研修を4目:	20月(木) 5	71日(全)の	一日間 テル		
	ディカルプラネック							
	固人情報など全職員			=				
		5/13/C/13/C	- 0/03/17	711915 I IN C				
///~	2DVDの活用なと	だより受講図	図の向上に努め	カた ₋				
	PDVDの活用なと 同看護研究発表大:			· ·				
・第 40	回看護研究発表大統	会を「磨こう	看護のちから	」をテーマに	. 11月25日	(土) にハイブ		
・第 40 リット	回看護研究発表大 ド形式で開催し、28	会を「磨こう 57 名が参加し	看護のちから た。また、各	」をテーマに 分野での研究	- 11月 25日 E成果と最新の	(土) にハイブ O情報を職員		
・第 40 リット で共存	回看護研究発表大 ド形式で開催し、29 育することを目的と	会を「磨こう 57 名が参加し	看護のちから た。また、各	」をテーマに 分野での研究	- 11月 25日 E成果と最新の	(土) にハイブ O情報を職員		
・第 40 リット で共存 発表さ	回看護研究発表大会 ド形式で開催し、25 有することを目的と された。	会を「磨こう。 57名が参加し こした院内学術	看護のちから た。また、各 5発表会をポン	」をテーマに 分野での研タ スター形式で	- 11月 25日 E成果と最新の 開催。各部署	(土) にハイブ の情報を職員 から 17 演題が		
・第 40 リット で共存 発表さ ・看護師	回看護研究発表大学 で開催し、25 ですることを目的と された。 で特定行為研修修了	会を「磨こう。 57 名が参加し こした院内学術 ご者がクリニス	看護のちから た。また、各 所発表会をポン カルラダー研	」をテーマに 分野での研タ スター形式で 冬において、	- 11月 25日 ピ成果と最新の 開催。各部署 「臨床推論」	(土) にハイブ D情報を職員 から 17 演題が をケーススタ		
・第 40 リット で共存 発表 i ・ 看 護 i ディ用	回看護研究発表大会 ド形式で開催し、25 すすることを目的と された。 所特定行為研修修了 ジ式で指導した。ま	会を「磨こう。 57 名が参加し した院内学術 者がクリニス こた、各部署で	看護のちからた。また、名 た。また、名 所発表会をポン カルラダー研修 では特定看護的	」をテーマに 分野での研究 スター形式で をにおいて、 雨と共に勉強	- 11月 25日 ピ成果と最新の 開催。各部署 「臨床推論」	(土) にハイブ D情報を職員 から 17 演題が をケーススタ		
・第 40 リッマ共存 ・発表護 ・ ディの打	回看護研究発表大会 ド形式で開催し、25 有することを目的と された。 市特定行為研修修了 ジ式で指導した。ま 指導を行い看護師の	会を「磨こう。 57名が参加し した院内学術 者がクリニス そた、各部署で)アセスメント	看護のちからた。また、各所発表会をポンフルラダー研修では特定看護的、力の向上を図	」をテーマに分野での研究スター形式で「 多において、 雨と共に勉強。	11月25日 E成果と最新の 開催。各部署 「臨床推論」 会を開催し、	(土) にハイブ か情報を職員 から 17 演題が をケーススタ 「病態生理」な		
第40リッ共表・看デビ教・教育	回看護研究発表大会 ド形式で開催し、25 すすることを目的と された。 所特定行為研修修了 が式で指導した。ま 指導を行い看護師の 所修管理センターが	会を「磨こう。 57名が参加し した院内学術 者がクリニス そた、各部署で シアセスメント いてとなり、	看護のちからた。また、名 所発表会をポッ カルラダー研修 では特定看護的 、力の向上を 研修医のみが	」をテーマに分野での研究スター形式で	11月25日 記成果と最新の 開催。各部署 「臨床推論」 会を開催し、 科医師の意見	(土) にハイブ の情報を職員 から 17 演題が をケーススタ 「病態生理」な も取り入れな		
第40第 リ で 発 表 護 用 が で 教 が ら 荷 ら 荷 ら の す ら の す ら の す ら の す ら の す ら の す い す い す か が い か か か か か か か か か か か か か か か か か	回看護研究発表大会 ド形式で開催し、25 すすることを目的と された。 市特定行為研修修了 が式で指導した。ま 指導を行い看護師の 肝修管理センターが 肝修プログラムの充	会を「磨こう。 57名が参加し した院内学術 でおり、 ででなるがある。 でででなる。 でするとなり、 でするといる。 でする。 でする。 でする。 でする。 でする。 でする。 でする。 です	看護のちからた。また、名所発表会をポッカルラダー研修では特定看護的の向上を関いている。 かい	」をテーマに 分野での研究 スター形式で「 多において、 而と共に勉強: 図った。 ならず各診療: ならず各診療!	11月25日 記成果と最新の 開催。各部署 「臨床推論」 会を開催し、 科医師の意見 な運用に努め	(土) にハイブ D情報を職員 から 17 演題が をケーススタ 「病態生理」な も取り入れな た。		
第40 ・第リで発表 ・第リで発表 ・一次 ・一次 ・一次 ・一次 ・一次 ・一次 ・一次 ・一次	回看護研究発表大会 ド形式で開催し、25 育することを目的と された。 市特定行為研修修了 が式で指導した。ま 計算を行い看護師の 所修管理センターが 所修プログラムの充 主射トレーニングア	会を「磨こう。 57名が参加し こした院内学術 されたのリニス それ、各部メント いてしとなり、 で実ととショレい でエムやレサシ	看護のちからた。また、名所発表会をポップルラダー研修では特定看護的の一上を図り、一一ションラステン等のションション	」をテーマに 分野での研究 スター形式で 多において、 而と共に勉強 図った。 ならず各診療 ボ室の効果的 ミュレーター	11月25日 記成果と最新の 開催。各部署 「臨床推論」 会を開催し、 科医師の意見 な運用に努め の新規購入や	(土) にハイブ の情報を職員 から 17 演題が をケーススタ 「病態生理」な も取り入れな た。 、白内障手		
・	回看護研究発表大会で開催し、25 ド形式で開催し、25 すすることを目的といれた。 一特定行為研修修了 手で指導した。ま 手修管理センタムの方 手修プログラムの方 主射ト競操作等のま 変関節鏡操作等のま	会を「磨こう 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	看護のちから名た。また。またを表表をかられた。またをがいた。 からない かい	」をテーマに 分野での研究 スター形式で「 多において、 雨と共に勉強。 ならず各診療が 宝ュレーターの 実習メニュ、	11月25日 記成果と最新の 開催。各部署 「臨床推論」 会を開催し、 科医師の意見 な運用に努め の新規購入や 一の充実を図	(土) にハイブ D情報を職員 から 17 演題が をケーススタ 「病態生理」な も取り入れな た。 、白内障手 り、目標値で		
・	回看護研究発表大会で開催し、25年で開催し、25年で開催し、25年で開催し、25年であることを目的といれた。 一特定行為研修修了場合で指導を行った。 一時でではないでは、 一時ではないでは、 一時では、 一時に、 一時に、 一時に、 一時に、 一時に、 一時に、 一時に、 一時に	会を「磨こう。 57名が参加している。 さした院内学術では、 されたにクロースでは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、	看護のちから名がまた。また、ポップルラダー では 中の 医 の と で は 中の 医 の と で かって	」をテーマに 分野での研究 スター形式で「 多において、 而と共に勉強。 図った。 ならず各診療が 室の効果的だ ミュレーター(実習メニュ・ 率 136.2%) と	111月25日 記成果と最新の 開催。各部署 「臨床推論」 会を開催し、 科医師の意見 い新規購入や 一の新規購入や 一の信を上回	(土) にハイブ の情報を職員 から 17 演題が をケーススタ 「病態生理」な も取り入れな た。 ら 内障値 で り、 の た。		
・	回看護研究発表大会で開催し、25年で開催し、25年で開催し、25年でではなることをでいることをでいるでは、15年でおりでは、15年ででは、15年ででは、15年には、15年には、	会を「磨こう」 57名た院である。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	看護のちから名がた。また、名がまた。まままなが、名がないない。 かい は かい を は かい では かい では かい でい かい は は は は	」をテーマに 分野での研究 スター形式で 多において、 而と共に勉強 ぶらず各診療 ボ室のか果的に 実習メニュー 実習メニュー 率 136.2%) とし とWeb環境	11月25日 記成果と最新の 開催。各部署 「臨床推論」 会を開催し、 科医明開構し、 科のでの の の の が の の の の の の の に は の の の の に の に の に の に	(土) にハイブ の情報を職員 から 17 演題が をケーススタ 「病態生理」な も取り入れな た。 ら 内障値 で り、 の た。		
・	回看護研究発表大会で開催し、25年で開催し、25年で開催した。 おおった。 おおった。 おおったが では で で で で で で で で で で で で で で で で で で	会を「暦 55 57 57 57 57 57 57 57 57 57 57 57 57	看護のちから名 た。ま会をポース では力の修ショ等かんでは力の修ショ等加入では力の修ショ等加入ではから では力のをシップをはない。 は、	」をテーマに 分野での研究 ター形式で 多において、 雨と共に勉強 さらず各診療が ま室レータメニュー 率 136.2%)と とWeb環境 と数育の充実	11月25日 記成果と最新の 開催。各部署 「臨床推論」 会を 医運用機 のの のので のので のので は が のので のので は のので のので は のので のので は り のので は り のので り の り の	(土) にハイブ D情報を職題が を方態 をから 17 演題が をを態 大の情報で をがまり、 の内目標値 でのた。 最を新たに東		
・	回看護研究発表大祭で開発表大祭で開催を開発をし、25年では、10日のでは	会を 名だ と	看護のちから名がた。ま会をおいまた。ま会をがいまた。ま会をがいた。 一番 では かい	」をテーマに 分野での研究 ター形式で「 多において、 雨と共に勉強 は室のからず各別の は室のレーターの 実習 136.2%) 環境 とWeb環境 長数育の充実に 59名となった	111月25日 記成果と最新署 「臨床推論」 会 医運用規葉を のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するに、 のに対するに、 のに対するに、 のに対するに、 のに対するには、 のには、	(土) にハイブ D情報を職題が を方態 をから 17 演題が をを態 大の情報で をがまり、 の内目標値 でのた。 最を新たに東		
・	回看護研究発表大会で開催し、25年で開催し、25年で開催した。 おおった。 おおった。 おおったが では で で で で で で で で で で で で で で で で で で	会を 名だ と	看護のちから名がた。ま会をおいまた。ま会をがいまた。ま会をがいた。 一番 では かい	」をテーマに 分野での研究 ター形式で「 多において、 雨と共に勉強 は室のからず各別の は室のレーターの 実習 136.2%) 環境 とWeb環境 長数育の充実に 59名となった	111月25日 記成果と最新署 「臨床推論」 会 医運用規葉を のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するに、 のに対するに、 のに対するに、 のに対するに、 のに対するには、 のには、	(土) にハイブ D情報を職題が を方態 をから 17 演題が をを態 大の情報で をがまり、 の内目標値 でのた。 最を新たに東		
・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	回看護研究発表大祭で開発表大祭で開催を開発をし、25年では、10日のでは	会を 名だ と	看護のちから名がた。ま会をおいまた。ま会をがいまた。ま会をがいた。 一番 では かい	」をテーマに 分野での研究 ター形式で「 多において、 雨と共に勉強 は室のからず各別の は室のレーターの 実習 136.2%) 環境 とWeb環境 長数育の充実に 59名となった	111月25日 記成果と最新署 「臨床推論」 会 医運用規葉を のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するでは、 のに対するに、 のに対するに、 のに対するに、 のに対するに、 のに対するには、 のには、	(土) にハイブ D情報を職題が を方態 をから 17 演題が をを態 大の情報で をがまり、 の内目標値 でのた。 最を新たに東		
・	回看護研究発表大会で開発を表す。 で形式では、できるできるできるでは、できるできるできるでは、できるできるでは、できるできるできるでは、できるできるできるできるでは、できるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	会を名だしている。 では、 では、 では、 できれたが、 できれたが、 できれたが、 できれたが、 できないのでは、 では、 できないのでは、 しょうはいいのでは、 できないのでは、 できないのできないのでは、 できないのでは、 できない	看護のちた。表示によった。表示ではカの作のでは、力研ーアのは外の修シン・は、49をでは、大のでは、大のでは、大のでは、大のでは、大のでは、大のでは、大のでは、大の	」をテーマに 分野での研究 スター形式で「 多において、 雨と共に。 お室のレーメン。 実 136.2%)を と We もの充った と 数名と者は 5 動力を は 159 名とおける。 は 150 名となる。 は 1	11月25日 形成果と最部署 「な 医運新の標準と 原体 医運動の では 原体 のに は、 一月を では、 一月を では、 一月を では、 一月を では、 一月を では、 一月を でいる。 でい。 でいる。	(土) にハイブ で		
・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	回看護研究発表大会で開催し、25年で開催し、25年では、2	会を名だして、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは	看護のちた。また。また。また。また。また。また。また。また。また。また。また。 がいない かい	」をテーマに 分野での研究 ター形式で「 多において、 でと共に。 きいでものがでいる。 ではないでは、 をはないでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	11月25日 記成果と最新署 「なみととよい。 「なからによい。 「ながらない。」 「ながらない。」 「ながった。」 「ながらいる。」 「ながった。」 「ながった。」 「ながった。」 「ながった。」 「ながった。」 「ながった。」 「ながった。」 「ながった。」 「ながった。」 「ながった。」 「ながった。」 「ながった。」 「ながった。」 「ながった。」 「ながった。」 「ないた。 「ないた。 「な、 「ないた。 「ないた。 「な、 「ないた。 「ないた。 「な、 「ないた。 「ないた。 「な、	(土) にハイブ で		
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	回看護研究発表大会で開発を表す。 で形式では、できるできるできるでは、できるできるできるでは、できるできるでは、できるできるできるでは、できるできるできるできるでは、できるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	会を名だしている。 では、 では、 では、 できれたが、 できれたが、 できれたが、 できれたが、 できないのでは、 では、 できないのでは、 しょうはいいのでは、 できないのでは、 できないのできないのでは、 できないのでは、 できない	看護のちた。また。また。また。また。また。また。また。また。また。また。また。 がいない かい	」をテーマに 分野での研究 ター形式で「 多において、 でと共に。 きいでものがでいる。 ではないでは、 をはないでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	11月25日 記成果と最新署 「なみととよい。 「なからによい。 「ながらない。」 「ながらない。」 「ながった。」 「ながらいる。」 「ながった。」 「ながった。」 「ながった。」 「ながった。」 「ながった。」 「ながった。」 「ながった。」 「ながった。」 「ながった。」 「ながった。」 「ながった。」 「ながった。」 「ながった。」 「ながった。」 「ながった。」 「ないた。 「ないた。 「な、 「ないた。 「ないた。 「な、 「ないた。 「ないた。 「な、 「ないた。 「ないた。 「な、	(土) にハイブ で		

参考値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
シミュレーションラボ室 利用延べ人数	3,829 人	3,775 人	4,309人	3,848 人
臨床研修指導医数	56 人	54 人	56 人	59 人

【評価理由】

新規採用職員を対象の多職種合同研修や、全職員を対象とした教育・研修を開催。シミュレーターの購入や実習プログラムの追加などにより実習メニューの充実を図り、目標値である実習プログラム受講延べ人数の達成率は136.2%となった。教育研修の充実と環境の整備により、年度計画の水準を上回る実績と考え、「s」と評価した。

	(評価理由)	評価
市評価		

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

3 職員の勤務意欲の向上

3 職	員の勤務意欲の向上		
中期目標	職場環境を整備し、職員の自己啓発への支援制度や能力・勤務実績が認められる仕組 ことで、職員の勤務意欲を向上させ、組織の活性化を図ること。	ー 組みを事	を備する
中期計画	職員の自己啓発へのチャレンジを推進するため、職員資格取得支援制度の充実を図る 員の能力や勤務実績に応じた評価がされているか点検・改善を行います。 また、職員満足度調査の結果を業務改善に活用するための施策を検討し、勤務環境は 行うことができる仕組みを構築します。		, , , , ,
年度計画	職員の勤務意欲等を把握するため、全職員を対象とした職員満足度調査を実施し、 場環境の整備に努めます。職員の勤務意欲の向上と能力開発を図るため、自己啓発へ 化し、優れた人材を育成し活用する仕組みの整備を進めます。 子育て世代に対応した勤務環境の整備や、看護職全員を対象とした定期的な面談の 師の離職防止に向けて取り組みます。また、認定看護師、専門看護師、特定看護師等 学会等の参加を奨励します。	への支援 の実施な	受策を強 など看護
困難度			
法人 自己評価	(評価理由) 就業規則の改正や看護補助者 (ナーシングアシスタント) の賃金引き上げなどによる処 や、「入院支援チーム」の新設による子育て世代の勤務環境整備など、職員の勤務意 上に取り組んだ。目標値である職員満足度の達成率は計画の水準を満たすと共に、ベ	欲の向	評価 A
	一ク値比較ではいずれも上回っており、年度計画における所期の目標をおおむね達成 ると考え、「A」と評価した。	してい	
	業務実績、評価理由	重点	評価
【実績】 ・育児約 テージ 慮しれ 様な値	正度向上に向けた取り組み 短時間勤務看護師とパート職員で構成し、入院患者の病歴確認や入院生活のオリエン ション等を行う「入院支援チーム」を新たに立ち上げた。育児と仕事のバランスに配 ながら、短時間勤務者の看護の経験と能力を最大限に活かせる場を設けることで、多 動き方へ柔軟に対応した。 サルタントによる病棟看護師の業務量調査を実施。調査結果から、多くの時間を費や		а
減と ・月の ・月の ・同様 ・職海 ・発 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	いた看護記録業務や申し送り業務の見直し等、職員自らが改善に取り組み、業務の軽時間外の縮減を図った。 給、初任給調整手当、期末・勤勉手当の改定(引上げ)、災害応急対策等業務手当の新 変間看護手当の加算、看護補助者(ナーシングアシスタント)の賃金の引き上げなど、処遇 こ取り組んだ。 パートナーの特別休暇等の取得や定年の段階的な引き上げ、定年前再雇用短時間勤務 制度の導入など就業規則の改正を行い、働きやすい環境整備に取り組んだ。 で開催された学会で演題発表を行った医師4名、理学療法士1名に対して、海外演題 奨励金を支給し、自己啓発の促進に努めた。 の資格取得を支援する看護師の特定行為研修修学資金貸与制度について、6名が制度 こよる受講を開始し、年度内に修了した。		
対 調 回 ・ 職 員 に ひ き ・ 新規 ま	満足度調査概要 象者:全職員(パートタイマー職員含む) 査期間:12月1日(金)~12月21日(木)まで 答者数:874人(回答率 69.8%) Q1 「現在の仕事にやりがいがあると思いますか」 3.78 (達成率 101.3%) 参考:一般病院(500 床以上)ベンチマーク 3.71 Q2 「当院を職場としてすすめようと思いますか」 2.91 (達成率 99.3%) 参考:一般病院(500 床以上)ベンチマーク 2.88 満足度調査の結果を踏まえ、各所属において「職員満足カイゼン検討シート」を作成 善に取り組むことで、職員が安心して働ける職場環境の整備に努めた。 采用の看護師に対して、副看護部長等が頻回な面談と定期的なサポートを行うと共 所属長による看護師全員を対象とした面談の実施により、離職の防止に努めた。		

目標値

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度		
坝 口	実績	実績	実績	目標	実績		
職員満足度(5段階評価)							
Q. 現在の仕事にやりがいがあると思いますか	3. 72	3. 72	3. 71	3. 73	3. 78		
Q. 当院を職場としてすすめようと思いますか	2. 98	2. 92	2. 92	2. 93	2. 91		

参考値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
資格取得支援制度利用者数	2人	7人	7人	8人
教育休職制度等利用者数	2人	1人	2人	1人
育児・介護休業制度利用者数	69 人	78 人	75 人	84 人

【評価理由】

就業規則の改正や看護補助者 (ナーシングアシスタント) の賃金引き上げなどによる処遇改善や、「入院支援チーム」の新設による子育て世代の勤務環境整備など、職員の勤務意欲の向上に取り組んだ。目標値である職員満足度の達成率は計画の水準を満たすと共に、ベンチマーク値比較ではいずれも上回っており、年度計画の水準を満たしていると考え、「a」と評価した。

	(評価理由)	評価
市評価		

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

4 事務部門の強化

4 事	務部門の強化		
中期目標	事務職員の計画的な採用とともに、研修や人事管理等の仕組みの構築等を通して、 に関する制度等に精通した専門性の高い事務職員を確保し、育成していくこと。	引院経営	长、医療
中期計画	他部門との業務における連携を推進するほか、専門性の高い職員を育成するため、事育成プランを作成し中長期的な視点で自身のキャリアを見通せる体制を構築します。 また、市との連携による研修への参加や、計画的な採用・人事異動等により事務部門ます。		, , , , , ,
年度計画	他部門との業務における連携を推進するほか、専門性の高い職員を育成するため、 材育成プランを作成し中長期的な視点で自身のキャリアを見通せる体制を構築します。 また、市との連携による研修への参加や、計画的な採用・人事異動等により OFF-JT・O 育成を推進し、事務部門の強化に努めます。		, , ,
困難度			
法人 自己評価	(評価理由) 事務職員の「目標による管理」試行による指導や達成度に応じた業務評価により、事務職員の「目標による管理」試行による指導や達成度に応じた業務評価により、事行能力の向上に取り組むと共に、人材育成プランの原案の決定及び本格運用に向けた性進めた。また、委員会や外部評価受審に向けた他部門との協働による連携の推進や、責任の階層別研修等への参加による職位別の能力向上等に努めており、年度計画において、またないないませんである。「A・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	協議を 静岡市	評価
	期の目標をおおむね達成していると考え、「A」と評価した。	重点	=₩/m:
○事務職員 【実績】	業務実績、評価理由 員の育成 度より「目標による管理」を事務職員で試行した。業務の進捗管理や上司との面談を	里尽	評価 a
・事務時 を進る ・院内の の協信 ・静岡i	うことで、職員の事務遂行能力を高める取り組みとした。 職員の人材育成プランの原案を作成及び決定し、令和7年度の本格運用に向けて協議 めた。 の各委員会での活動や、病院機能評価・卒後臨床研修機能評価受審に向けた他部門と 動による改善活動への参加等により、業務連携を推進した。 市が主催する階層別研修や選択研修に事務職員17名が参加し、職位別に必要となる知 事務職員としての事務能力向上等を図り、事務部門の強化に努めた。		
<階層短 <選択	 ・チームワーク入門研修(採用3年目研修) ・問題発見力向上研修(主任主事級研修) ・問題解決力向上研修(主任主事級研修) ・総合マネジメント研修(主査級研修) ・説明能力向上研修(コミュニケーション能力) 		
	・クレーム対応研修(コミュニケーション能力) ・レジリエンス研修(業務遂行能力) ・段取り力向上研修(業務遂行能力) ・コンセプチュアルスキル研修(政策形成能力) ・ワンペーパー資料作成研修(政策形成能力)		
参考値			
自院主作	項目		
者数	53 人 63 人 63 人 63 人		
静岡市主講者数	E催研修 事務職員受 9 人 20 人 19 人 17 人		

能力の向」 た。また、 階層別研修	記	
市評価	(評価理由)	評価

第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

1 経営指標に係る数値目標の設定

1 経	営指標に係る数							- I II H
		対法人法等に基づ なのなる///は 図る		に係る連営質	貸担金の受 <i>力</i>	へれの下、第3月	朝中期	自標期間
中期目標		営の健全化を図る	-		- las - 47 A	515 + 1 .) D. L.	トマル
		率については、第 1225	3期甲期目標	関間の収支に	こおいて、経済	引收文比率 100%	%以上。	こする要
	値目標を設定す						→ L1	
		下採算医療を含め	•					
中期計画		テい、第3期中期 ・	目標期間にま	おける経常収え	え比率 100%じ	人上を目指し、	安定し7	た財務基
	盤を確立しまっ							
	病院経営に影響する環境の変化に迅速に対応し、市民が求める高度医療・救急医療や当院が							
年度計画	に担うべき医療を提供する体制を維持していくため、収益の確保及び費用の節減や静岡市が 営費負担金の活用により、第3期中期目標期間における経常収支比率100%以上を目指します。							
	営費負担金の指	古用により、第3	期中期目標期	間における窓	E 常収支比率 1	.00%以上を目指	旨します	0
困難度								
	(評価理由)							評価
法人		外来単価の増加に						۸
自己評価		を上回り安定的な		•	F度計画におり	ナる所期の目標	をおお	Α
	むね達成してい	Nると考え、「A」					1	
- No. 11			実績、評価理	<u> </u>			重点	評価
- //	票達成に向けた」	取り組み						_
【実績】			<i></i>					а
		価、外来単価の増	望加などによ!	前年度に比る	ベ 832 百万円:	増の 21,034 百		
	となった。							
		定による給与費の		費及び診療材	料費の増加な	どにより前年		
		増の 22, 282 百万	-					
		まりの年度であり						
		門となったもの						
		類に移行したこ。			ルス感染症対	策に係る補助		
		196 百万円減の 3		=				
		経常収支は 93 百						
•		た。(病院運営に係	る新型コロナ	ウイルス感染症	関連補助金を	余いた場合、269		
白力片]の赤字)							
口插供								
目標値	-T-1	A. C. o. bertechtet	^ * . o be product	A T	^* = 	A.T. = bestertalet		
(c7 244.1	項目				令和5年度目標			
経常収支		106.1%	105. 4%	105. 1%		100.4%		
医業収支	文比率	91.7%	92.4%	94. 2%	92.0%以上	94.4%		
参考値		[1		
	項目	令和2年度実績						
不良債務		0%	0 %	0 %	0 %			
資金不足		0%	0%	0 %	0 %			
累積欠損	量金比率	0 %	0 %	0 %	0 %			
【評価理問	-							
		増加による医業収						
		的な病院経営に努	Yめており、 ^左	F度計画の水達	準を満たしてい	いると考え、		
「a」とi	平価した。							
	(評価理由)							評価
市評価								
THE I	1							

第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

2 収入の確保及び費用の節減

2 収	入の確保及び費用の節減		
中期目標	収入増加に繋がる診療体制の確保や効率的な病床利用に努めるとともに、診療報酬の 向等の医療環境の変化に的確かつ迅速に対応し、安定的な収入確保を図ること。 また、職員全員がコスト意識を持ち、効率的な業務運営に努めること。人件費及び材料の調達コストの削減等を通して、費用の節減を図ること。		
	地域の医療機関との連携等により効率的な病床利用に努めるとともに、診療報酬の	ら会社会	ケ党への
		リカレノウ	XXE: (0)
中期計画	的確な対応、施設基準の取得などに取り組み、安定した収入の確保を行います。		m). /=.
	職員給与費比率や薬品費比率等の経営指標を定期的に分析し、適切な人員配置やコン	スト管地	里を行い
	費用の節減に努めます。		
	【収入の確保】		
	専門知識を有する職員の配置や算定率の向上等に取組み、請求漏れや査定減を防」	とし、追	歯切な診
	療報酬請求事務を行います。限度額適用認定証*など公的扶助制度の利用を促進し未収	又金の乳	Ě生防止
	に努めるとともに、施設基準や診療報酬加算等の取得に関する検討を適時かつ適切に関	実施しる	ます。
	地域の医療機関との連携を強化し、紹介患者及び救急患者の増加につなげ安定経営	営に必要	要な病床
	稼働率を維持します。		
年度計画	【費用の節減】		
1 2211	■ベス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・	自者サ-	ービスの
	向上等に十分配慮したうえで、業務の効率化・業務量の適正化による給与費の抑制に関		
	後発医薬品の採用や市場調査に基づく価格交渉と在庫管理の徹底により、医薬品や記		, ,
	コスト削減に努めます。	2/JK/Y1 /1·	1 4 7 10月(土)
	一八下門域にあめより。 職員一人ひとりの経営への参画意識向上のため、部門間のコミュニケーションをB	別な し 1	2 7 17
		引の て (- BIC,
	経営情報を共有し継続的な改善活動に取組む組織風土を醸成します。 		
困難度			
	(評価理由)		評価
法人	定期的な請求データの精度管理や地域医療機関との連携による紹介率・逆紹介率の	– •	
自己評価	による収入確保に向けた取り組みや、後発品の採用や診療材料の価格交渉等による費		Α
	減に努めるとともに、各種KPIの達成状況を共有し、達成に向けた取組を実施して	おり、	, ,
	年度計画における所期の目標をおおむね達成していると考え、「A」と評価した。		
	業務実績、評価理由	重点	評価
○収入の積	催保及び費用の節減に向けた取り組み		
【実績】			а
(収入の研	在保)		
ア適り	別な診療報酬請求事務の実施		
• [請求漏れ防止策として、定期的に請求データの精度管理を実施。査定内容の検証や積		
	動的な再審査請求及び再発防止のため、保険診療委員会を毎月開催し、査定理由に応		
	じたチェックシステムへの登録等の査定対策に努め、査定率は0.18% (前回は0.18%) と		
	なった。		
	施設基準の取得については、定期的に取得可否を検証し機会損失のないよう対応し		
	た。<参考:令和5年度 施設基準取得は5件、年間47,000千円の増収>		
	又金発生の防止と回収の取組 よいによい変換が到いることが、用した、 健康保険社会関策等等 円辺 字社の法のよか		
	オンライン資格確認システムを活用した、健康保険証や限度額適用認定証の速やかな		
	確認及び、職員による督促を行い令和5年度の収納率(現年度分)は 99.3% (前回は		
	9.3%) となった。		
_	ず医療機関との連携		
	紹介率は90.8% (前年度実績90.6%)、逆紹介率は153.5% (前年度実績155.5%) となった。		
	退院支援に係る取組		
•)	入院前に退院困難な患者のスクリーニングによるアプローチ等を早期に行い、入院前		
7	から退院まで一連の支援を行った。		

(費用の節減)

ア 給与費抑制に係る取組

- ・人件費の適正な管理については、経営面への影響を配慮しつつ、診療報酬の確保や働き 方改革への対応、第一種感染症指定医療機関としての医療体制の整備などを十分に配慮 した上で、職員の適正配置及び時間外勤務の適正管理による給与費の抑制に努めた。
- ・給与費比率は46.8%であった。

イ 医薬品や診療材料費の抑制に係る取組

- ・後発品の採用については、毎月の薬剤委員会にて各メーカーからの最新情報を検証し、 切替可能な医薬品から行い、後発医薬品指数*は88.7%となった。
- ・医薬品価格交渉については、アドバイザーからの最新の市場価格情報に基づき医薬品 ディーラーと定期的に交渉(年2回)し、主要5社の医薬品最終値引率は15.1%となった。
- ・診療材料の価格交渉については、当院が利用契約を行っているベンチマークシステムを 指標とし、職員がディーラーと価格交渉を行い、ベンチマークシステムの平均値を下回 るよう取り組んだ。
- ・在庫管理については、医薬品は年4回、診療材料は毎月の実地たな卸しを行い、在庫管理の徹底や期限切れ等による減耗損の発生防止に努めた。

ウ 職員の経営意識の醸成

・月次収支の報告資料の内容について、前年度との差異が生じた理由等や医業収支及び営業収支の状況等を、経営統括会議にて毎月詳細に説明するとともに、必要に応じて経営向上のための協力事項を整理し、幹部や各部門に伝達した。

目標値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	令和5年度実績
職員給与費比率*	51.4%	49.4%	48.2%	50.0%以下	46.8%
経費比率*	18.0%	17.3%	16.2%	18.0%以下	15.7%
委託費比率*	9.2%	9.1%	8.2%	9.1%以下	8.0%

参考値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
病床稼働率(506 床)	77.8%	78.8%	82.8%	80.4%
入院収益	12, 114 百万円	13, 182 百万円	13,931 百万円	14,416 百万円
外来収益	5, 195 百万円	5,454 百万円	5,926 百万円	6,247 百万円
薬品費比率	16.3%	17. 2%	18.3%	18.6%
診療材料費比率*	16.5%	16.8%	16.1%	17.2%

【評価理由】

定期的な請求データの精度管理や地域医療機関との連携による紹介率・逆紹介率の推進等による収入確保に向けた取り組みや、後発品の採用や診療材料の価格交渉等による費用の節減に努めるとともに、各種KPIの達成状況を共有し、達成に向けた取組を実施しており、年度計画の水準を満たしていると考え、「a」と評価した。

	(評価理由)	評価
市評価		

第5 その他業務運営に関する重要事項に係る目標を達成するためとるべき措置

1 法令等の遵守

1 法	令等の遵守		
中期目標	医療法等の関係法令を遵守し、行動規範の確立及び実践により、適正な業務運営を	と行うこ	こと。ま
1 791 11/15	た、個人情報保護、情報公開に関して、法令や国のガイドラインに基づき、適切に対応	さするこ	こと。
	公的医療機関にふさわしい行動規範を確立するため、医療法、労働基準法、個人情報	報保護 治	去など関
中期計画	連する法令を遵守し、法令改正時の適切な対応や内部統制の整備等により、適正な対	美務運営	ぎを行い
	ます。		
	公的使命を適切に果たすため、医療法をはじめとする関係法令や内部規程を遵守し	ン、各種	重規程の
年度計画	整備と適切な運用に努めます。職員を対象とした定期的な研修の開催により、行動規	見範の達	尊守とそ
	の重要性について周知徹底します。		
田₩庄			
困難度			
	(評価理由)		評価
) -	静岡市個人情報保護条例の全部改正に伴う規程の改正や、個人情報保護講演会・ハ	ラスメ	
法人	ント防止研修会の開催等により、各種規程の整備と行動規範の遵守に努めた。労働基	準監督	В
自己評価	署による立入検査で、職員の労働時間と健康管理について指摘を受けており、年度計	画にお	Ь
	ける所期の目標を達成する成果が得られていないと考え、「B」と評価した。		
	業務実績、評価理由	重点	評価
○法令等の			
【実績】			b
• 静岡i	市保健所による医療法第25条第1項に基づく定期立入検査が11月22日(水)に実施		
	た。指摘事項 (法令等に違反するもの) はなく、適正と認められた。		
労働	基準監督署による立入検査が 11 月 10 日 (金) に実施され、是正勧告により職員の労		
働時	間と健康管理について指摘を受けた。指摘について適正に是正し、改善状況を労働基		
	野署へ報告した。		
• 静岡ī	†個人情報保護条例の全部改正 (新条例制定) に伴い、個人情報保護規程の改正を行っ		
	関連するマニュアル等も改訂し、チェックシートの導入など職員一人ひとりのセルフ		
チェ	ックに資する内容とした。		
• 個人	青報保護講演会は、個人情報保護と情報セキュリティをテーマに、外部講師と病院職		
員を	講師に開催した。		
<個,	人情報保護講演会>		
9,	月 29 日(金)		
	1 サイバーセキュリティと個人情報保護~情報漏洩を防ぐ~		
	講師:SOMPOリスクマネジメント㈱上級コンサルタント 山崎 堅司 氏		
	2 個人情報保護に関する基本手引と現場における個人情報の具体的な取扱いの改正		
	講師:総務課 総務・企画係 係長		
	3 USBメモリ・電子メールの取扱いに関するお願い		
	講師:総務課 情報係 係長		
· 1月⁄	~2月を個人情報保護重点取組月間とし、各部署で目標と取り組み内容を定めて活動		
した。	期間中の3日間で個人情報保護院内ラウンドを行い、チェックの視点を養うと共に		
他部	署での取り組みを共有した。		
• 静岡!	県警察本部と合同による標的型攻撃メール訓練を実施。院内の任意の 200 アカウント		
を対象	象に、作成した訓練用疑似メールを送信し、当院職員が適切に対応できるかを検証し		
た。	訓練では1割弱の職員が疑似メールに反応、返信する結果であったことから、訓練		
後、「	県警からのアドバイスを含め不審メール受信時の対応について院内へ注意喚起した。		
<標的	的型攻撃メール訓練>		
	6月19日(月) Web サーバー観測時間 10:00~17:00		
	送信数 200 アドレス URL開封率 14.5% (29アドレス)		

・管理監督者を対象としたハラスメント防止研修会を開催した。また、ハラスメント防止に 関する院内への注意喚起や相談窓口の周知など職場内のハラスメント防止に取り組んだ。 <ハラスメント防止研修会>

3月7日(木) ハラスメントオンライン研修講座

(主任科長·看護師長·技師長·係長級以上対象 参加人数 78 人) 講師: 成蹊大学 法学部教授 原 昌登氏

参考値

75.0	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
項目	実績	実績	実績	実績
医療法第25条第1項に基づく立入検査での 指摘事項数	0件	0件	0件	0件
個人情報保護講演会受講者数	545 人	679 人	777 人	817 人
ハラスメント防止研修会受講者数	32 人	41 人	55 人	78 人

【評価理由】

静岡市個人情報保護条例の全部改正に伴う規程の改正や、個人情報保護講演会・ハラスメント防止研修会の開催等により、各種規程の整備と行動規範の遵守に努めた。労働基準監督署による立入検査で、職員の労働時間と健康管理について指摘を受けており、年度計画の水準を満たす成果が得られていないと考え、「b」と評価した。

	(評価理由)	評価
市評価		

第5 その他業務運営に関する重要事項に係る目標を達成するためとるべき措置

2 施設・医療機器等の更新

2 施	設・医療機器等の更新		
	今後の医療需要の変化や地域の実情を踏まえ、長期的な視点をもって、病院施設・記 繕を計画的に実施すること。	受備の 勇	更新や修
	特に老朽化した施設については、医療の高度化や技術の進展に適応するための再整	告が、次国	五である
中期目標	ことから、市と十分に連携を図りながら、本目標に定める病院が担うべき役割・機能等	宇で昭3	にん、村
	来の病院のあり方について検討を進めること。		
	医療機器の導入や更新については、費用対効果等を検証した上で計画的に行うこと。		
	デジタル化への対応については、医療の質の向上、働き方改革の推進等を見据え、		はシステ
	ムを積極的に活用していくこと。		
	医療政策の動向や医療需要の変化、社会情勢を踏まえ、地域の医療需要や必要性、技	采算性を	を十分に
	考慮し、計画的な高度医療機器の更新及び整備を行います。		
	また、老朽化の進んだ施設の再整備については、医療の高度化・複雑化及び時代のこ	ニーズに	こ対応す
中期計画	るため、病床規模や診療体制等を考慮しながら、患者アメニティや職場環境の向上は	こも配慮	意し、静
	岡市等と連携して将来の病院のあり方について検討を進めます。		
	マイナンバーカードを利用したオンライン資格確認やAI問診等、医療のDX(デジ	ジタルトラ	ランスフォ
	ーメーション)を推進し、医療の質の向上と業務の効率化を図ります。		
	医療政策の動向や医療需要の変化や社会情勢を踏まえながら、必要性・採算性を十分	分に考慮	意し、計
	画的な高度医療機器の更新及び整備を行います。		
	令和5年度は、前年度から継続している手術室の増設工事のほか、遠隔操作型内で	∄籍下∃	E術装置
年度計画	(ダ・ヴィンチ)、注射薬払出装置、2方向X線透視装置などの更新を行います。	, 1 3620	MAKE
ТДПЫ	電子処方箋及びAI問診の導入並びにマイナンバーカードを利用したオンライン	*	図の更な
	る推進により、医療のDX(デジタルトランスフォーメーション)に努めます。また、電		
	ムやペーパーレス会議の導入など業務の効率化を図ります。	包 】 (人必	
	コペペーパーレク云巌の辱八なと 未務の効率化を図ります。		
困難度			
	(評価理由)		評価
	病院DXを推進するため電算委員会内に病院DX部会を発足し、問診の電子化やO	CR機	
法人	能の導入などに取り組んだ。また、文書管理システムの導入や会議資料の電子ファイ	. — -	
自己評価	ど煩雑な文書管理業務の効率化に努めた。手術室の増設工事や2方向X線透視装置更	新など	Α
	施設設備や医療機器の更新を計画的に実施しており、年度計画における所期の目標を	おおむ	
	ね達成していると考え、「A」と評価した。		
	業務実績、評価理由	重点	評価
○施設・四	医療機器等の更新		
【実績】			а
• 病院	事務における、より一層の業務の効率化や職員の負担軽減のため、最新のデジタル技		
術を消	舌用した病院DXを推進するため、電算委員会内に病院DX部会を発足した。		
• 問診p	内容をテキスト化し、コピー&ペーストで文字情報を電子カルテへ取り込む問診の電		
子化る	とOCR機能を口腔外科で導入し、問診業務の効率化と待ち時間の短縮を図った。今		
後は他	也科への運用拡大に取り組む。		
	今の電子化···タブレット端末により、問診がテキストデータ化されることで電子カル		
1.45	テへの入力をスムーズにする機能。		
0.0	CR機能・・・お薬手帳等の紙媒体を読み取り文字をテキストデータ化し、電子カルテへ		
	の入力をスムーズにする機能。		
. D D	Aへの取り組みとして、退院サマリー督促支援の試験的実施や、すでに運用している		
	への 税 が 組み として、		
,	への祝祭、阮内神便云の開催などにより導入に向けた取り組みを行った。 P.A・・・人がパソコン上で日常的に行っている作業を、人が実行するのと同じかたちで		
KI			
J. ++ 4	自動化する技術。操作手順を記録し、高速で正確に実行することが可能。		
	管理システムの導入による電子決裁や運営会議資料の電子ファイル化により、ペーパ		
	スと文書の作成・検索・保存・引継・廃棄など業務にかかわる煩雑な文書管理業務の		
	とに努めた。		
	室 10 の増設を行った。増設した手術室はロボット手術室とし、更新した遠隔操作型内		
視鏡	下手術装置 (ダ・ヴィンチ) を設置した。		

	(評価理由)	評価
の導入など 雑な文書管	】を推進するため電算委員会内に病院DX部会を発足し、問診の電子化やOCR機能に取り組んだ。また、文書管理システムの導入や会議資料の電子ファイル化など煩理業務の効率化に努めた。手術室の増設工事や2方向X線透視装置更新など施設設器の更新を計画的に実施しており、年度計画の水準を満たしていると考え、「a」と	
•	施設設備及び医療機器の更新> 手術室 10 増設工事 西館昇降機更新 2 方向 X 線透視装置更新 注射薬払出装置更新 西館 4 階陣痛室等改修工事 東 8 階 H C U (ハイケアユニット) 増床工事 正面玄関等出入ロテンキー・カードキー設置工事 正面玄関職員用出入口増設工事	
<主な	施設設備及び医療機器の更新>	

Ⅳ 令和5年度計画目標值·参考值一覧

			計画日標他・麥考順	- 元					
中	小	圩	^表 指標:	乞	R 2 実績	R3実績	R 4 実績	R 5 目標	R 5 実績
1	1	赵	指標: 	1	R 4 夫領	ハッ大順	K 4 夫領	K 3 目標	K 3 夫領
	1	FI I	DPC入院期間Ⅱ以內退	院割合	66.3%	67.1%	66. 1%	68.0%	69. 8%
			入退院支援加算算定件数		5,307件	5,426件	6,665件	5,500件	7, 595
			地域連携パス(疾患別病認		314 件	526 件	362 件	450 件	440 {
			件数						
			重症度、医療・看護必要	度Ⅱ	40. 7%	39.8%	36. 1%	_	36. 6°
			在宅復帰率	T	92. 2%	97.8%	97.0%	_	97. 4
			医療機能別病床数	高度急性期	451 床	500 床	355 床	_	306
				急性期	49床	0床	145 床	_	194
	2	青	静岡病院が担うべき医療(j						
			カテーテルアブレーショ		234 件	321 件	368 件	_	411
			冠動脈インターベンショ	ン件数	439件	442件	388 件	_	477
			開心術件数		307 件	267 件	212 件	_	203
			TAVI		75 件	97 件	103 件		101
			ステントグラフト治療件	数	110 件	117件	107 件		130
			ロボット支援手術件数		90件	118件	131 件	_	152
			内視鏡手術件数		794件	1,002件	1,109件	_	1, 187
			内視鏡検査件数		3,929件	4,361件	4,805件	_	4, 881
			PET/CT稼働件数		781 件	726件	767 件	_	793
			悪性腫瘍手術件数		735 件	737 件	771件	_	742
			がん化学療法延べ患者数		3,626 人	3,751 人	3,827 人	_	3, 921
			救急搬送応需率		94.9%	97.5%	95. 9%	95.0%	97. 6
			救急患者数		10,720 人	11,292 人	12,958 人		13, 305
			救急車搬送患者数		5,352 人	5,875 人	6,989 人	_	7, 548
			地域救急貢献率		19.7%	19.6%	20.4%	_	20. 6
			感染症対応用確保病床数	(最大確保数)	32 床	32床	28 床	_	23
			紫外線照射ロボット稼働	実績	2,458 回	2,506 回	2,050 回	_	1,072
			手指衛生用消毒液購入量		3, 7650	3, 3860	2,8300	_	2, 2
			入院患者1人1日	日あたり病棟用購入量	18.6ml	18.9ml	17. 4ml		13.8
			防災訓練開催回数		4回	4回	4回	_	4
			DMAT隊チーム数		2チーム	2チーム	2チーム	_	2チー
2	1	患	君中心の医療の推進						
			総合相談件数		4,603件	5,028件	5,285件	_	5, 714
				退院調整(在宅)	52.3%	50.3%	49.0%	_	45. 3
				退院調整(転院)	27.9%	29.8%	30.3%	_	27. 4
				経済的な相談	7.4%	7.8%	5.2%	_	3. 9
				受診に関する相談	7.3%	5.6%	1.9%	_	2. 1
				その他	5.1%	6.5%	13.6%	_	21. 3
	2	医療	安全対策						
			インシデントレポート件	数	2,140件	2,194件	2,702件	2,200 件	2, 865
			入院患者の転倒・転落発	生率	0.22%	0.26%	0.28%	_	0. 28
-			医療安全作業部会開催回	数	33 回	33 回	43 回	_	52
			クリニカルパス数		74	126	166	_	2
	3	患	者サービスの向上						
			入院患者満足度		90.9%	87. 2%	89.8%	90.0%	91. 6
			外来患者満足度		86.0%	80.1%	83. 7%	85.0%	89. 6
			入院患者満足度 (接遇項目	目のみ)	89.1%	86.8%	92.9%	_	92. 9
			外来患者満足度 (接遇項目	目のみ)	86.8%	82. 2%	87.3%	_	87. 5
			提案箱投書件数		127 件	128件	94件	_	106
				苦 情	42. 5%	44.5%	45. 7%	<u>—</u>	54. 7
				提案、要望	41.0%	32.8%	29.8%	—	18. 9

1.	-		Į	頁目名					
大	中	小		指標名	R 2 実績	R 3 実績	R4実績	R 5 目標	R 5 実績
				感謝、お褒め	16.5%	20.3%	24.5%	_	24.5%
				その他	0.0%	2.4%	0.0%	_	1.9%
	3	1	2	医療従事者の確保					
				医師数・歯科医師数	158 人	163 人	167 人	_	169 人
				うち、専攻医数	21 人	29 人	35 人	—	29 人
				うち、研修医数	25 人	26 人	26 人	_	27 人
				助産師・看護師数	517 人	533 人	528 人	_	526 人
				医療技術員数	170 人	169 人	170人	_	174人
				各種専門資格を有する職員数	125 人	125 人	126 人	—	138 人
				医師・歯科医師	93 人	92 人	92 人	_	102 人
				助産師・看護師	14 人	16 人	18人	_	19 人
				医療技術員数	18 人	17 人	16人	_	17 人
		2	2	医療従事者の働きやすい環境づくり					
				有給休暇の年間取得日数 (医療従事者)	11.6 日	12.4 日	12.6 日	12.7 日	12.3 日
				医師の平均時間外勤務時間数	38.6 時間/月	41.1 時間/月	48.5 時間/月	46.0時間/月	48.6 時間/月
				有給休暇の年間取得日数 (医療従事者)					
				医師・歯科医師	7.8 日	9.3 目	9.7 日	—	12.1 日
				助産師・看護師	13.6 日	13.8 目	13.8 日	_	11.8 日
				医療技術員	10.2 日	11.4 日	11.9 日	_	13.8 日
				時間外勤務 年 960 時間超えの医師数	4人	5人	14 人	_	12 人
				看護師特定行為研修修了者数	5人	4人	2人	_	8人
				うち、当院職員修了者数	5人	3人	1人		6人
	4	1	ŧ	也域の医療機関との連携					
				紹介率	86.4%	86.6%	90.6%	87.0%	90.8%
				逆紹介率	144.0%	140.0%	155.5%	140.0%	153.5%
				連携安心カード (ホレンジカード) 新規発行枚数	234 枚	273 枚	231 枚	_	231 枚
		2	Ī	市や関係機関等との連携					
				看護実習受入実人数 (看護学校)	147 人	260 人	482 人	_	554人
				救命救急士実習受入人数 (消防局)	21 人	12 人	2人	_	14人
				障がい者職場実習受入人数 (支援学校等)	0人	1人	9人	_	1人
		3	Ī	市民への情報提供					
				病院ホームページ訪問数	600, 458	523, 057	453, 099	530, 000	471, 482
				市政出前講座受講延べ人数	157 人	256 人	1,036人	_	730 人
				中学生対象「がん教育」活動実績	8校8講義	7校12講義	9校15講義	_	9校 14講義
3	1		4	」 効率的な業務運営等	8日間	8日間	11 日間		9 日間
J	_		/.	1日平均入院患者数	393 人	399 人	419 人	420 人	407 人
				平均在院日数	11.7日	11.4日	11.6日	11.0日	10.6日
				入院単価	84, 318 円	90,601 円	91, 128 円	_	96, 807 円
				新入院患者数	11,279 人	11,787 人	12, 110 人		12, 795 人
	2		寿	教育研修の充実	11, 210 /	21, 101 / (12, 110 / \		12, 100 /
	_		٦	実習プログラム受講延べ人数	907 人	1,319人	1,780人	1,100人	1,498人
				シミュレーションラボ室利用延べ人数	3,829 人	3,775人	4,309人		3,848 人
				臨床研修指導医数	56 人	54人	56 人		59 人
	3		H	職員の勤務意欲の向上	30 /\	54八	JU /\		55 八
	J		Ą	戦員の勤務息紙の向上 職員満足度 (5段階評価)					
				頼貝両足及 (5段階評価) Q現在の仕事にやりがいがあると思いますか	3. 72	3. 72	9 71	9 <i>7</i> 9	3. 78
							3. 71	3. 73	
				Q当院を職場としてすすめようと思いますか 次枚取得支援制度利用老粉	2. 98	2. 92	2. 92	2. 93	2.91
				資格取得支援制度利用者数	2人	7人	7人	_	8人
				教育休職制度等利用者数	2人	1人	2人	_	1人
				育児・介護休業制度利用者数	69 人	78人	75 人		84人

大	中	小	項目名						
人	4	小		指標名	R2実績	R 3 実績	R 4 実績	R 5 目標	R5実績
	4		事務	一部門の強化					
				自院主催研修 事務職員受講者数	53 人	63 人	60 人	_	63 人
				静岡市主催 事務職員受講者数	9人	20 人	19 人	_	17 人
				医療団体等主催外部研修 事務職員受講者数	3人	6人	9人	_	19人
4	1		縚	経営指標に係る数値目標の設定					
				経常収支比率	106.1%	105.4%	105.1%	96.5%以上	100.4%
				医業収支比率	91.7%	92.4%	94. 2%	92.0%以上	94. 4%
				不良債務比率	0%	0%	0%	_	0%
				資金不足比率	0%	0%	0%	_	0%
				累積欠損金比率	0%	0%	0%	_	0%
	2		巾	収入の確保及び費用の節減					
				職員給与費比率	51.4%	49.4%	48. 2%	50.0%以下	46.8%
				経費比率	18.0%	17.3%	16.2%	18.0%以下	15. 7%
				委託費比率	9.2%	9.1%	8.2%	9.1%以下	8.0%
				病床稼働率(506 床)	77.8%	78.8%	82.8%	_	80.4%
				入院収益	12,114 百万円	13,182 百万円	13,931 百万円	_	14,416 百万円
				外来収益	5,195 百万円	5,454 百万円	5,926 百万円	_	6,247 百万円
				薬品費比率	16.3%	17.2%	18.3%	_	18.6%
				診療材料費比率	16.5%	16.8%	16.1%	_	17. 2%
5	1		注	令等の遵守					
				医療法第25条第1項に基づく立入検査での指 摘事項数	0件	0件	0件	_	0件
				個人情報保護講演会受講者数	545 人	679 人	777 人	_	817 人
				ハラスメント防止研修会受講者数	32 人	41 人	55 人	_	78 人

<医療・診療>

<医療・診療>	
DPC(診断群分類)	入院期間中に医療資源を最も投入した「傷病」と、手術、処置、化学療法などの
	「診療行為」の組合せにより分類。約500の疾患に対して4,000以上の診断群に分類
	している。
PET/CT	病巣部の機能を速やかに診断する「PET画像」と、細かな位置情報を検出する
	「CT画像」がひとつになった検査機器。
TAVI	胸を開かず、心臓が動いている状態で、カテーテルを使って人工弁を患者さんの心
(経カテーテル大動脈弁置換術)	臓に装着する治療法。
インシデント	事故につながりかねない医療行為を未然に防げた例や、実施されたが結果的に患者
	に傷害や不利益を及ぼさなかった事象、日常診療で起こりそうな医療事故や医療過
	誤などに事前に気付いて対処できた事例などのこと。
インフォームドコンセント	患者が医師等から診療内容などについて十分な説明を受け理解した上で、患者自身
	が最終的な治療方法を選択すること。
カテーテルアブレーション	カテーテルという細い管を足の付け根から心臓に挿入し、不整脈発生箇所をカテー
	テルで焼き切る治療法。
 冠動脈インターベンション	狭くなったり (狭窄) 詰まったり (閉塞) した冠動脈をカテーテルという細い管を
(PCI)	用いて治療する方法。
カンファレンス	医療を提供する関係スタッフが、情報の共有や共通理解を図ったり、問題解決を図
	るために開催する会議。
緩和ケア	がん等の重い病を抱える患者や、その家族一人ひとりの肉体的・精神的苦痛を和ら
小女イログ ク	げ、より豊かな人生を送ることができるように支えていく行動。
限度額適用認定証	
以及領通用部足証	高額な外来診療を受けたり、入院した際に、医療費の支払いを世帯の自己負担限度
古庇為批批	額までとする認定証。
高度急性期	急性期(病気や怪我による症状が急激に現れ、健康が失われる時期)の患者に対して、状態の思想なないについて、診療な療法がはて真い医療さればなる。
	の早期安定化に向けて、診療密度が特に高い医療を提供する必要がある時期のこ
後発医薬品指数	と。 後発医薬品の数量 / (後発医薬品のある先発医薬品の数量 + 後発医薬品の数量)
災害医療派遣チーム(DMAT)	医師、看護師、薬剤師、事務職員などの他職種で構成され、大規模災害や多傷病者 が発生した事故などの現場におおむね48時間以内に出動することができる専門的な
2/2 - 1/4 - 2/4 ンラギ	医療チーム。 医師や研修医、看護師その他メディカル・スタッフが随時トレーニングを行えるよ
シミュレーションラボ	
コニン 1 ガニー 1 沙山市	う、様々なシミュレーション機器を取り揃えた施設。
ステントグラフト治療	ステントといわれるバネ状の金属を取り付けた人工血管を、カテーテルで足の付け
Irt /크쇼딩	根から施術する患者の身体への負担が非常に少ない治療法。
低侵襲	手術・検査などに伴う痛みや出血などをできるだけ少なくする医療。内視鏡やカテ
	ーテルなど、身体に対する侵襲度が低い医療機器を用いた診断・治療を行うことに
45 - 1-7-1 V - 2-4-4-2	より、患者の負担が少なく、回復も早くなる。
特定行為看護師	医師の判断を待たずに一定の診療補助業務(特定行為)がおこなえる看護師。特定行
(看護師特定行為研修)	為には21区分38行為があり、それぞれ区分ごとに研修を行い、研修を修了すること
	で受講した区分の特定行為が実施できるようになる。
認定看護師	日本看護協会の審査に合格し、特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識
	を用いて、水準の高い看護実践ができる看護師。
パス (クリニカルパス)	治療や検査にあたってどのような経過をとるのか、その実施内容や順序を示したス
	ケジュール表のこと。医療の介入内容を一元化することで、チーム医療の実現、医
	療の質の向上を図ろうとするもの。
臨床研修医	国家試験合格後、臨床研修病院や大学病院で臨床研修(2年間)を受ける医師。

<病院・地域>

>/////// 10/35//	
イージーイーツーネット	セキュリティを確保した電子メールとFAX機能を備えたシステム。病院の診療情報等の学院が記述。FAXでよりようなないなませ、悪傷が記述
\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	の送信が可能。FAXでも今までよりきれいな書体、画像が可能。
逆紹介率	逆紹介患者数 / 初診患者数 (※) × 100
	※初診患者数=初診患者の総数ー(救急車により搬入された初診患者数+休日又は
	夜間に受診した救急初診患者数)
地域包括ケアシステム	住み慣れた自宅でずっと、人生の最期まで自分らしく暮らせるよう、静岡市の特徴
	である地域の「つながる力」と、健康寿命が長い「元気な高齢者」の活躍により、
	本人・家族を支援する地域包括のケアの仕組み。
施設基準	健康保険法等の規定に基づき、保険診療の一部について、医療機関の機能や設備、
	診療体制、安全面やサービス面等を評価するための基準。
紹介率	文書により紹介された患者数 / 初診患者数 (※) × 100
	※初診患者数=初診患者の総数ー(救急車により搬入された初診患者数+休日又は
	夜間に受診した救急初診患者数)
地域がん診療連携拠点病院	地域におけるがん治療水準の向上に努め、がん患者や家族に対する相談支援や、が
	んに関する各種情報の提供等、県が定めたがん診療機能などの指定要件をクリア
	し、質の高いがん医療を提供することができる病院。
地域医療構想	団塊の世代が75歳以上になる2025年の医療需要(患者数)を予測し、そのときに必
	要な医療機能を考え、在宅医療ニーズも含めて最適な地域医療の形を組み立てるも
	\mathcal{O}_{0}
地域医療支援病院	医療施設機能の体系化の一環として、地域で連携して医療が提供されることが望ま
	しいという観点から、紹介患者に対する医療提供、医療機器等の共同利用の実施等
	を通じて、かかりつけ医等を支援する能力を備える医療機関。
地域周産期母子医療センター	産科及び小児科等を備え、地域において妊娠・出産から新生児に至る高度で専門的
近郊川庄州日 」	な医療を常時行うことができる施設で、総合周産期母子医療センターと地域の周産
	期医療施設等との連携も行う。
地域包括ケアシステム	対応療施設等との建筑も打力。 住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるように、
地域已括グナンハナム	
地位は地域が	住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されるシステム。
地域連携パス	患者を中心として、地域で医療・介護に関わる人々がそれぞれの役割分担を行い、
(疾患別病診連携パス)	お互いに情報共有をすることにより、今後の診療の目標や注意点を明確にし、チー
	ムで患者さんを支えてゆくための仕組み。
二次医療	二次医療は特殊な医療を除く入院医療に対応し、医療機関の機能連携に基づく医療
	サービスと広域的、専門的な保健サービスとの連携等により、包括的な保健医療サ
	ービスを提供する。
	他に初期の診断・治療を行う一次医療、高度・特殊な医療を担う三次医療がある。
働き方改革	政府が推進する「一億総活躍社会」を実現するため、非正規雇用労働者の処遇改善
	や長時間労働の是正など、労働制度の抜本的な改革を行うもの。
平均在院日数	在院延べ患者数 / (新入院患者数 + 退院患者数) × 1/2
臨床研修指定病院	臨床研修医が卒後2年間、基本的な手技、知識(初期研修)を身につけるため籍を
	置き、経験を積む場を提供する病院。厚生労働省の審査を受け、指定を受けた病院
	のみ研修医と雇用契約を結び(研修医であると同時に勤務医でもある)受け入れる
	ことができる。
	<u> </u>

<組織・経営>

委託費比率	委託費 / 医業収益 × 100
職員給与費比率	給与費 / 医業収益 × 100
経常収支比率	経常収益 / 経常費用 × 100
経費比率	経費 / 医業収益 × 100
診療材料費比率	材料費 / 医業収益 × 100